

1 9 9 9

授業概要

【シラバス】

福祉援助学科

白梅学園短期大学

SHIRAOUME GAKUEN COLLEGE

目次（福祉援助科）

教養教育科目（1年）

文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
近代日本の歴史	6
西洋文学	7
東洋美術	8
演劇論	9
現代家族論	10
日本国憲法	11
生活の経済学	12
心理学入門	13
マスコミュニケーション概論	14
現代社会と女性	15
生命の科学	16
生物と環境	17
生活の科学	18
健康の生理学	19
情報処理入門	20
総合科目 人間	21~23
総合英語Ⅰ-1、2	24・25
選択語学Ⅰ-1 海外語学研修	26
スポーツA（テニス）	27
スポーツA（ダンス）	28
スポーツA（バドミントン）	29
スポーツB（キャンプ）	30
健康科学	31
スポーツ科学	32

専門教育科目（1年）

社会福祉概論Ⅰ	35
社会福祉概論Ⅱ	36
老人福祉論	37
リハビリテーション論	38
老人の心理	39
家政学概論	40
介護概論Ⅰ	41
介護概論Ⅱ	42
介護技術Ⅰ	43
障害形態別介護技術Ⅰ	44~46
介護実習Ⅰ	47
介護実習Ⅱ	48
実習指導	49
家族福祉論	50
ボランティア論	51
発達心理学	52
保育文化論	53
音楽とダンス	54・55
遊びの造形	56

専門教育科目（2年）

障害児・者福祉論	59・60
社会福祉援助技術論	61
社会福祉援助技術	62
レクリエーション指導法	63
障害者の心理	64
栄養・調理	65
家政学実習Ⅰ（栄養・調理）	66
家政学実習Ⅱ（被服・住居）	67・68
医学一般Ⅰ	69
医学一般Ⅱ	70
精神保健	71
介護技術Ⅱ	72
障害形態別介護技術Ⅱ	73～75
視覚障害援助技術	76
聴覚障害援助技術	77
介護実習Ⅲ	78
実習指導	79
卒業研究ゼミナール	80～86
地域福祉論	87
施設処遇論	88
ホスピスケア概論	89
カウンセリング	90・91
発達障害論	92
言語発達臨床論	93
視聴覚メディア活用法	94

教養教育科目（1年）

【授業科目】 文学・フィクションと人間

【担当者】 栗田廣美

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

小説・映画・ドラマ の中の世界は、**どこに** あるのだろう？
それは、我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」だ。
この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標です。

【テキスト】

随時、プリントを配布します。プリント以外の「読書課題」は、ありません。

【参考書】

必要に応じ、講義中に紹介します。特別に買う「義務」はありません。

授 業 計 画

だいたい、次のような流れで、講義して行きます。
具体的作品は、プリント等を使って紹介＝解説します。

① 「フィクション」について

例えば「小説」に書かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり、「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。……映画も、テレビドラマも同じこと。
しかし、我々は、**なぜ**、そんな「ウソッパチ」に感動したり、
中には「生き方が変わってしまう」人まで出てくるのか。

② 「作品世界」の構造（しくみ）について

「作品世界＝もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのだろうか。
そもそも、それは、誰が「見ている」世界なのか。「語っている」のは「誰」なのか。
少なくとも、いわゆる「作者」ではないはずだ。

③ フィクションと「現実」について

小説・映画・ドラマは「現実ではない」という。
では、「現実」とは、何なのだろう？
何が「フィクション」で、何が「フィクションではない」のか。

……日本とヨーロッパの、近代文学作品を中心に、
美術や音楽も視野に入れた講義になると思います。

【評価方法】

筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて「書く」形式。
講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておけば、大丈夫。
出席点を加味して、総合的に評価する。

【授業科目】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 日本の古典作品の多くが、受験文法のために使われるのみで、その内容を知られないままに終わってしまうのは、とても残念なことだと思われる。</p> <p>優れた古典は、作品としての主張を持っており、現代に生きる私たちの解説をこそ待っている。王朝文学のおもしろさに気づくことが、第一の目標である。ついで作品の主張の意味を時代に即して考えることにしたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』・配布プリント</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>初期の物語作品がらまず『竹取物語』をとりあげ、口伝えによるカタリから物語が生成してくるこの意味について、考えていく。</p> <p>ついで『源氏物語』をとりあげて、物語の成熟のさまを見る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、様々な竹取の物語 2、カタリの話型と、話型による物語 3、難題婚譚の達成 4、かぐや姫とは何か（物語の主題） 5、物語の中の異界：『古事記』の場合・『源氏物語』の場合 6、源氏物語の論理：形代・予言・宿世・身分 7、源氏物語の主題：王法と仏法・社会制度と自我 	
<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時のまとめメモ ・定期試験時のレポート（または筆記試験） 	

【授業科目】 話し言葉の文芸	【担当者】 東 喜望
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>将来に資するために、口承文芸をとりあげます。</p> <p>初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。</p> <p>大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。</p>	
【テキスト】 拙著『沖縄奄美説話探訪』（おうみ社） 講義資料プリント。	
【参考書】 授業時に随時指示する。	
授 業 計 画	
<p>この講座は、はじめ保育科だけを対象にしていたが、その後、各科共通になりました。新しく福祉援助学科もできましたので、人間の真のヒューマニズムを考えるためにも、悪や犯罪の民俗にかかわる民話も積極的にとりあげることになりました。各説話の事例として、南西諸島の説話をとりあげます。</p>	
<p><u>講義の概要</u></p> <p>I. はじめに——「虚学」のすすめ----- (1)「浦島説話の源流」 (2)「わが国をニッポンというのなせが。——古事記「岩戸神話」のルーツ</p> <p>II. 精神のコスモロジー----- (1)自然と人間 (2)ことばと文化 (3)「語り」「語り」の発生——文芸の起源</p> <p>III. 口承文芸概説--- (1)信仰と説話 (2)神話・伝説・昔話</p> <p>IV. 民話の現代性----- 悪を告発する民話——⁽¹⁾間引き・子がえい伝承 (2)継子・子売り・捨子伝承 (3)嫁殺し・兄弟殺し・親捨(姥捨)伝承。 (4)いけにえ伝承。</p>	
【評価方法】 定期試験時の筆記試験	

【授業科目】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史を題材にしなが ら、時間の流れの中で移り変わり、変化をとげていく社会を構造的にとらえていく 手法について話しをしたい。どのような視点から歴史を見つめるかといったことから まず検討し、それを実践したとき何が見えてくるかを明らかにしてみる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるので講義中に逐次紹介する。資料はプリントして配布する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>これまでの歴史の学習の中ではあまり体験したことのない、ローアングルからの歴史 認識ということについてまず説明をしてみたい。歴史を支え、突き動かしている民衆 に視座を据えたこのアプローチからは、近年、多くの研究成果が生み出されているが、 実は、明治の初期に、すでにこのような視角から当時の民衆生活を克明に描き、そう いった人々をとりまく社会の構造について分析したルポや研究の書があった。まず、 これらを導きの糸にして、なぜそのような視角が成立し、そのような作品があらわれ ることになったのかを、当時の時代状況を検討することで明らかにしようと思う。歴 史的な事件や人物などの細かい知識は不要。ダイナミックに近代の全体像をつかみ、 その中でいろいろな形で歴史との関わりをもった人々に細心の注意を払い、その生き 様をみつめる目を養うことが重要。以下、次のようなテーマを設定して講義を進めた い（但し、順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史を学ぶことについて—まずは固定イメージの転換から ・ ローアングルからの歴史とは ・ 日本近代の見取り図—近代史像のダイナミズム ・ 明治という時代—人々を取り巻く国家の枠組みは ・ 底辺民衆を見つめる目—潜入ルポルタージュの先駆、松原岩五郎 ・ 『日本之下層社会』が問い掛けたもの—近代化の実相 ・ 成金時代に書かれた『貧乏物語』—足腰の弱い経済発展 ・ 恐慌と戦争の1930年代—民衆が求めたものは 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">本年度のテーマ：映画になった西洋文学</p> <p>最近、映画化される西洋文学作品が多い。良質のストーリーを求めると優れた文学作品に行き着くためと、優れた文学作品が文化的遺産として時代を超えて受け継がれているためであろう。一方、現代の視点と問題意識で作られた映画は、文学作品に新しい解釈をもたらすことがある。また映画化のたびに違った相貌を見せる作品もある。本年度は映画を案内役に、豊かな西洋文学の世界に近づいていきたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>毎回一つの文学作品について、映画の一部を視聴し、時代を経ても色褪せない文学の魅力のありかを考えたい。取り上げる予定の作品：</p> <p>ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』(1811年)；同映画(1995年)</p> <p>シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』(1847年)；同映画(1944年及び1996年)</p> <p>ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』(1595年)；同映画(1968年及び1996年)</p> <p>ルイザ・メイ・オルコット『若草物語』(1868年及び1869年)；同映画(1933年、1949年及び1994年)</p> <p>マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』(1936年)；同映画(1939年；リマスター版公開1998年)</p> <p>チャールズ・ディケンズ『大いなる遺産』(1860-61年)；同映画(1998年)</p> <p>アリス・ウォーカー『カラーパープル』(1982年)；同映画(1985年)</p> <p>エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』(1988年)；同映画(1993年)</p> <p>*作品は変更する場合がある。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート。</p>	

【授業科目】 東洋美術	【担当者】 鈴木 泉
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>東洋美術の中核は仏教美術であり、その仏教美術を知るための基本的存在が仏像彫刻と言って差し支えない。本授業では、この仏像彫刻の歴史的な展開を、東洋の端に位置する日本を例に概観し、東洋美術の一面を垣間見ることにする。そこから、美術作品を見る眼、さらには美術に対する教養・知識の幅を広げることが狙いではあるが、なにより受講者諸君には、仏像を通して美術鑑賞の面白さを知ってもらいたいと考えている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキストは用いず、適宜プリント資料を配布する。なお、参考文献等は必要に応じて授業中に紹介して行くつもりである。</p> <hr/> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>紀元前6世紀、釈迦によってインドに誕生した仏教は、紀元1世紀頃、礼拝対象としての仏教尊像すなわち仏像を造り出した。やがて、仏教の広まりとともに仏像もアジア各地に伝わり、それぞれの国・地域でその表情や姿を変えて行くのである。通例「東洋」とは、インド以東、主に東南アジア諸国・中国・朝鮮・日本を指す語とよい。しかし、その範囲は広く、各地域で文化の様相が異なり、美術様式も一様ではないため、必然的に地域・内容を絞らざるを得ない。</p> <p>今年度は、我々にもっとも身近な日本の仏像彫刻に焦点を当て、その様式の古代から中世にかけての変遷について概観する。日本の美術は、常に大陸、とりわけ中国・朝鮮の強い影響を受けて進展を遂げて来た。彫刻も例外ではない。したがって、本授業においてもこの点を十分に踏まえ、随時中国・朝鮮等の仏像を比較参照の意味で紹介して行きたいと思っている。なお、授業は大凡以下の順序・内容となる。一つのテーマを1～2回の講義でまとめて行くつもりである（授業回数の都合により一部変更する場合あり／ほぼ毎回スライドを使用する予定）。</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 仏像の誕生とその伝播 <ol style="list-style-type: none"> ①インドから中国・朝鮮への流れと日本への伝播 II. 仏像の見方 <ol style="list-style-type: none"> ②仏像の形式 ③仏像の材質・構造 III. 日本における仏像様式の展開 <ol style="list-style-type: none"> ④飛鳥時代の彫刻：[仏教伝来][渡来仏][止利仏師][止利様式と非止利様式] [法隆寺の諸像] ⑤白鳳時代の彫刻：[小金銅仏][当麻寺の諸像][旧山田寺仏頭][童顔] ⑥天平時代の彫刻：[法隆寺塔本塑像][薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺の諸像] [写実] ⑦平安時代の彫刻：[唐招提寺木彫像群][一木造像][大仏師定朝][寄木造像] ⑧鎌倉時代の彫刻：[運慶・快慶と慶派仏師][新たな写実様式] IV. 総括 <ol style="list-style-type: none"> ⑨日本の仏像彫刻の特質／東洋美術への誘い～美術鑑賞のすすめ～ 	
<p>【評価方法】</p> <p>①平常点（出席状況・受講態度等） ②レポート（1回） ③学期末試験（筆記） 以上を総合して評価する。詳細はあらためて授業中に説明する。</p>	

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から起しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特徴を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇と比較することによって、その多様性と特徴を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート
2. 授業時の小レポート
3. 授業時の平常臭

} 左記3項による総合評価

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。	
【テキスト・参考書】 望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館	
授 業 計 画	
1. 人間にとって家族とは何か 2. 家族のはたらき 3. 家族のタイプ 4. 家族のしくみ 5. 家族と福祉 6. まとめ	ー 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。 ー 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一律に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。 ー 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。 ー 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。 ー 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。 (1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉 ー 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。
【評価方法】 ペーパーテストを期末に実施	

【授業科目】 日本国憲法

【担当者】 駒村圭吾

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

日本国憲法について講義を行う。学説や判例の紹介もさることながら、人権意識の育成や、日本・世界で発生している社会問題への関心の啓発に力点をおきたい。

【テキスト】

なし。

【参考書】

何でも良いので、「六法」と呼ばれるもの一冊を用意されたい。

授 業 計 画

- (1) 毎回、1回で完了するようにテーマを設定し、具体的な事例を通じて、憲法に対する基本的関心を育成する。
- (2) 例之は、外国人・公務員の人権、表現の自由の限界、政教分離、生存権と社会保障、生死の自己決定、天皇制、9条と国際平和、男女平等、など。
- (3) なるべく具体的かつ平明に語るつもりである。予習は不要であるが、毎回出席し克明にノートを取り、復習につとめてほしい。
- (4) 授業が開始されればお分りいただけると思うが、担当者は教室管理にともうるさい。受講態度の不良な学生については、たとえ初犯であっても、大学側の学則とは無関係に、退室を求め、以後の受講を拒否する場合がありますこともお断りしておきたい。学生諸君の相互的な自浄作用によって適切な学習環境ができることを希望したい。

【評価方法】

学年末の記述式テストで評価する。
必要があれば、出席点を加味する。

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山哲朗
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本経済を転換期ととらえ、「生活の豊かさ」の再把握という視点より、「経済の豊かさ」と「生活の豊かさ」の関連構造を検証しながら、「経済と生活」をつなぐ基本的論理について講義を進めていく。戦後日本経済の歩みとその問題点に目を配る中から、21世紀に向かう「日本の生活像」に関する基礎知識の修得をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>第一回の講義の中で指定する。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義で取り上げるテーマは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活把握の基本視点——労働・家族・地域—— 2 戦後日本経済の展開過程——時期区分—— 3 戦後日本の生活の変容 4 「豊かさ」とは何か——生活経済学の論理—— 5 「生活の豊かさ」と高齢社会 6 「生活の豊かさ」と環境問題 7 生活福祉の社会経済学——非営利・協同の経済セクター—— 8 生活福祉と社会政策 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席と定期試験を総合的に勘案して評価する。</p>	

【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
【授業目標】 心理学の基本的なテーマについて紹介します。 今回は、性格と性格形成、対人関係の問題が中心テーマです。	
【テキスト・参考書】 テキスト：なし 図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。 金子尚弘・神田信彦・倉澤寿之「最後まで読める心理学」 重野純「キーワードコレクション心理学」、金子隆芳「心理学フロンテア」、 大山正「心理学への招待」、北尾倫彦「心理学への招待」、	
授 業 計 画	
1.心理学のなりたち 心理学の流れについて 2.幼児期と性格形成 VTRを利用します。 3.意識と無意識：精神分析の人間理解(1) Freudの思想と精神分析の概説 4 同 (2) libidoの役割とlibidoの発達 6 同 (3) 防衛機制 7 同 (4) 物語と夢の分析 8 性格について(1) 基本的な性格論の紹介 9 性格について(2) 性格理解の試みについて 10 対人関係について考える 11 人間の問題に取り組むために 13.心理療法の役割	
【評価方法】 平常点、中間試験、レポート	

【授業科目】 マスコミュニケーション概論

【担当者】 瀬木博道

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 現代はマスコミ支配の時代といえる。
マスコミとジャーナリズムの差違、「知る権利」の問題を考へるとともに、卒業後に役立つマスコミの応用面（広告、広報など）にも踏み込んでみたい。

【テキスト】

瀬木博道ほか著 「コミュニケーションあるPR」電通

【参考書】

瀬木博道ほか著 「広報の基礎工」日経広告研究所

授 業 計 画

1. マスコミ・ジャーナリズム論

- マスコミとは何か
- ジャーナリズムとは何か
- 我が国ジャーナリズムの特徴

2. 知る権利

- 言論の自由と知る権利
- 言論の自由に関する自由主義理論と社会的責任理論

3. マスコミ応用面

- 放送（テレビ・ラジオ）の問題
- 広報概論
- 広告概論

【評価方法】

出席状況、受講態度を参考にし、
期末試験で決める。

【授業科目】 現代社会と女性	【担当者】 川島美保
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代の女性の労働と暮らしの実態をとおして、来るべき男女平等社会、男女共生社会の課題を考える。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>適宜、資料プリントを配布する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>授業のなかで紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの変化と女性の生き方 2. 女性の就労と労働環境 <ol style="list-style-type: none"> 1) 上昇する女性労働力率 2) 女性の働き方—多様な就業形態— 3) 賃金・労働条件の男女格差 4) 労働法制の規制緩和と女性労働 5) 長期不況と女性労働 3. 女性と家庭生活 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家事・育児労働と性別役割分業 2) 共働きの生活問題 3) 女性の就労と子育て・介護支援システム 4. 少子・高齢社会と女性 5. アンペイド・ワークの社会的評価と男女共生社会 6. 男女共生社会への国内外の取り組み 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況及びレポート等による。</p>	

【授業科目】	生命の科学	担当者	小作明則
【開講期】	一年 後期		
【授業目標】	<p>21世紀を迎えようとしている今日「生物の多様性」の維持は地球上の生物環境をより安全な状態で維持していくための大きな課題である。この生物多様性を支えている「生命」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な理解を深め、さらに地球上における「人類」が抱えている今後の諸問題について概説する。</p>		
【テキスト・参考書】	<p>テキスト・参考書は特に指定しない。</p>		
<p>授業計画</p>			
<p>この講義では授業目標に掲げた内容を理解するためにおおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できるかぎり実物を自分の目で見、手でさわり、バーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。</p>			
<p>以下に時間ごとのおおよその講義計画のタイトルを示す。</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来 2. 地球と水と生命の誕生 3. 地球型生物の特徴と進化 4. 分子生物学と生物進化 5. 植物と動物の分化と進化 6. 生物の存在と地球環境の変化 7. 脊椎動物の進化 8. 生殖方法の変化と動物進化 9. サルとヒト 			
<p>以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩を通し、実物を見ながら生命について考えていこうと考えている。</p>			
【評価方法】	<p>レポートあるいは筆記試験</p>		

【授業科目】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>人類は多くの生物たちから様々な恩恵を受けてきた。しかしこの多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人類による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は私たち人類の将来にかかわってくる。ヒトと生物とその生存環境を考える。</p>	
<p>【テキスト】 OUR STOLEN FUTURE 邦訳『奪われし未来』 1997.9 翔泳社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>今から30年以上前に、海洋生物学者のRachel L. Carsonは『Silent spring』で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？知らないことが幸せなのか、知ることが不幸せなのか。</p> <p>授業は決して易しくはありません。幅広い基礎教養が要求されるはずです。今までの勉強がどれだけのものだったかが判ると思います。知る努力を惜しまず、共に考え続けていきたい。</p> <p style="padding-left: 40px;">自然科学の世界 単位について 環境とは 生物の世界 生態系、その構造と機能 天然化学物質と合成化学物質 沈黙の春 環境汚染 内分泌攪乱物質 奪われし未来</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点+筆記試験</p>	

【授業科目】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住ならびに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している原子や分子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本授業の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>「物質とは何か」-化学の基礎- 東京教学社</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。 2. 身の回りにある水分子の世界を覗いてみよう。 3. 原子と分子と私たちの生活。 4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。 5. 物質をつくっている分子の構造は何により決まるのだろうか。 6. 物質の状態は何により決まるのだろうか。 7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。 8. 酸は何故酸っぱく感じるのだろうか。 9. アルコールの正体は何であろうか。 10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。 11. 人や物質の老化は防げるか。活性酸素の化学。 12. 物質科学とエネルギー。 13. 物質科学からみた衣類、高分子化学の世界をみる。 14. 石油資源と石油化学を考える。 15. 21世紀の物質の世界を考える。 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験、レポート、出欠により評価する</p>	

【授業科目】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官の生理機能の理解 3. 代表的疾患の成因を理解し、疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の習得 ——生活習慣病と対策 4. 女性の医学 5. 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定）：自己測定を行い健康への関心を高める	
【テキスト】 シンプル 衛生公衆衛生学（改訂第6版）南江堂	
【参考書】	
授 業 計 画	
第1回 健康の概念 第2回 疾病予防と健康管理（I-1）：わが国の健康水準と健康増進施策 第3回 疾病予防と健康管理（I-2）：生活習慣病（癌・心疾患・高血圧） 第4回 疾病予防と健康管理（I-3）：生活習慣病（脳血管疾患・糖尿病・高脂血症） 第5回 疾病予防と健康管理（II）：健康管理法 （肥満・運動・ストレスと休養・飲酒・喫煙などの健康への影響） 第6回 健康管理の実際（血圧測定・体脂肪率測定） 第7回 女性の医学（I）（加齢と性機能・月経のしくみとホルモン） 第8回 女性の医学（II）（主な疾患の概要） 第9回 女性の医学（III）（性病・人工妊娠中絶と避妊法） 第10回 学校保健・産業保健 第11回 環境保健・母子保健・地域保健・ 第12回 感染性疾患（インフルエンザ・肝炎・AIDSなど） 第13回 成人・老人保健 第14回 保健医療制度と法規	
【評価方法】 出席点とレポート	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 多喜乃 亮介
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>コンピュータを利用して「情報」とは何か、「情報を扱う（情報処理）」とはどのようなことかを理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>Microsoft Word, Microsoft Excel, Netscape Navigator, Adobe PhotoShop, Adobe Illustrator などのソフトウェアを利用する予定です。必要に応じて参考図書を指示します。</p>	
授 業 計 画	
<p>「情報」となる素材をコンピュータ上で扱うための「技術」にはどのようなものがあるのか、その情報を「整理・分類」し、「再利用」できる形で「管理・保存」するにはどのような工夫が必要か、さらに、ネットワークを介して「情報」を「共有」するためにはどのような方法が有効か、といった「情報処理」に関連する事項を、実際のコンピュータ利用技術の習得を通して理解する。以下の項目にしたがって進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報の素材 (1) コンピュータに取り込むことのできる素材 2. 情報の素材 (2) コンピュータで作成できる素材 3. コンピュータの仕組み 情報がどのように扱われているかを知る 4. 情報の利用 <ネットワーク (1)> Web Page 上の情報利用, 情報検索 5. 情報の交換 <ネットワーク (2)> 電子メールを用いた連絡 6. 素材の作成 (1) ワープロソフトを利用した文書情報 7. 素材の作成 (2) 表計算ソフトを利用した数値情報 8. 素材の作成 (3) 絵や写真情報の加工 9. 情報の共有 <ネットワーク (3)> Web Page に情報を公開する方法 	
<p>【評価方法】</p> <p>課題の提出</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1 年 前期 (この科目は「通年」ですが、3人の教員が担当し、栗田担当分は前期前半です)	
<p>【授業目標】 総合科目人間【ヒューマニズムと現代】全体について</p> <p>☆ 1年間で3人の教員が担当する「総合科目」です。</p> <p>様々な発想・見解・学説がクロスオーバーする、本当に大学らしい知的刺激の場を目指します。「その1」～「その3」の3部に分かれます。</p> <p>☆ 【ヒューマニズムと現代】を統一テーマとして取り組みます。</p> <p>「ヒューマニズム」の問題性は？ 「現代」における人間とは？ 戦争や人権の問題は？ 以下3頁を見て下さい。</p> <p>その1-【人間と「ヒューマニズム」】(栗田担当分)については、下記の「授業計画」欄を見て下さい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>プリントを配布します。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>必要に応じ、講義中に紹介します。特別に買う「義務」はありません。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>本学の「建学の理念」とされる「ヒューマニズム」を、 自由に考えてみよう!</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 20px;"> <p>「ヒューマニズムは間違っている！」</p> <p>などと言う人は、めったにいません。</p> <p>では、なぜ「ヒューマニズム」は「正しい」のでしょうか。</p> <p>「そんなの、アタリマエでしょ」では、</p> <p>「自分の思想」にも「学問」にもなりません。</p> <p>要するに、「世間の通念」に流されているだけ。</p> <p>——そういう「ヒューマニスト」は、実に簡単に、</p> <p>「ファシズム」にも流されてしまう(かもしれない)。</p> </div> <p>総合科目人間【ヒューマニズムと現代】の、その1(第1部)は、【人間と「ヒューマニズム」】の問題を、おおむね、以下の順に講義します。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-bottom: 20px;"> <p>【1】 人間の条件——「私」とは誰か。</p> <p>……「死」に向かう存在。「独我論」の世界か、「私を生み出した世界」か。</p> <p>【2】 「他者」との出会い。</p> <p>……「どうにかせすにはいられない」のに「どうにもならない」人。</p> <p>【3】 人間の自己肯定——近代ヒューマニズムの「栄光と悲慘」</p> <p>……我々は、ほんとうに「しあわせ」になったか。</p> </div> <p>大きな問題ばかりですが、「明るく楽しく考えたい」と思っています。</p> <p>詳細は、講義の「空気」の中で、決めて行きます。</p>
<p>【評価方法】</p> <p>平常点とレポート。まじめに参加していれば大丈夫!</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 鍾 家新
【開講期】 Ⅰ 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>中国の人口は世界の五分の一を占めている。現代中国の民衆を論じることは、現代社会の人間を論じることになる。本講義は、日中比較を通して、中国民衆の人間像 — 喜び・悩みなどを明らかにし、日本人と中国人の人間像の異同を探究する。ヒューマニズムの視点と国際比較の手法を取り入れる。本講義の受講によって、学生たちは人間、社会、外国を相対的に見るための知識と能力を身につける。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>鍾家新著『中国民衆の欲望のゆくえ — 消費動態と家族変動』新曜社、1999年。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>授業ではつぎの諸テーマを取り上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> I 中国の「一人っ子政策」と日本の少子化 <ul style="list-style-type: none"> ①中国の人口問題と「一人っ子政策」 ②日本の少子化 — 日本の人口政策の変遷 II 中国の家族構造の深層と日本の家族 <ul style="list-style-type: none"> ①中国の家族構造と伝統文化の深さ ②外国人が見る日本の家族構造の特徴 III 中国女性の社会的地位と日本女性の社会的地位 <ul style="list-style-type: none"> ①中国女性の社会的地位と「一人っ子政策」 ②外国人が見る日本女性の社会的地位 IV 中国民衆の「衣食住」と日本民衆の「衣食住」 <ul style="list-style-type: none"> ①中国民衆の「衣食住」 ②日本民衆の「衣食住」 ③消費社会化の収斂 V 21世紀アジア人のゆくえ <ul style="list-style-type: none"> ①アジア人としての意識の確立の難しさ ②われわれの課題 VI 総括 — 現代社会における人間の奮闘と苦悩 <ul style="list-style-type: none"> ①個人と国家との関係 ②人権・ヒューマニズムの重要性 	
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>	

【授業科目】 総合科目人間	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>ヒューマニズムと現代 その3 前期のヒューマニズムと人権に引き続き平和について考える。平和という言葉の定義も含め、平和であるとはどのような状態をいうのか、また、そうなるためにはどういった取り組みが必要であるかを一緒に考えてみたい。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特に定めない</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p> <p>多数あるのでその都度紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>差し当たっては最も平和的でない状態、平和の対局にあると考えられる戦争について、発生のメカニズムやそれがもたらす災禍を具体的な事例に即して検証する。次いで、そのような状態を回避するための取り組みがどのように行われてきたかを検討し、過去、現在そして将来におけるその有効性について考える。また、そういった行動の背景となった近代の平和思想の歴史についても触れてみたい。</p> <p>次のようなテーマで話しを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇アジア・太平洋戦争と人・物・カネの総動員システム ◇現代戦争とゼロッサムの世界 ◇核被害の実情と核廃絶への挑戦 ◇平和憲法への道—近代の平和思想の歴史 ◇憲法9条を取り巻く現実 ◇「平和維持軍」が維持する「平和」とは何か ◇平和への課題—人権・福祉そして平和 	
<p>【評価方法】</p> <p>学期末にレポートを課す</p>	

【授業科目】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 田中安行
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簡潔な英語を聞き、話す力をつける。そして英語の音声と簡単な表現に慣れて、日常生活で相手の言うことを理解し、自己表現できるようにする。 2. 英語で書かれた世界の生活、文化、歴史、福祉問題、などに関する文章や時事問題、英詩、エッセイに触れながら、英語を理解する力をつける。同時に21世紀に生きる人間としての広い教養と国際的なものの見方や考え方を学び、21世紀社会での福祉に携わる人間に必要な生き方を身につけられるような学習を目指す。 3. 将来世界の福祉のさまざまな分野で活動するための基礎的な教養を身につけられるような英語学習にする。 <p>[テキスト・参考書] 開講時に指示する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 音声訓練 ビデオ教材やテープを利用して、英語の音声に慣れ、理解できるような練習を行う。 2. 音声表現 視聴覚教材や読み物教材の重要表現を習得して、音声による表現もできる力をつける。 3. 文章理解 英字新聞など身近な内容の英文を使って文の構造を理解させながら、パラグラフ・リーディングや要約ができるような文章の内容理解の方法を学ぶ。 4. 国際的な文化理解 現在の世界の生活、文化、歴史、福祉問題などを取りあげた英語教材を用いて、広い視野で学び、世界の多くの文化や歴史的背景を理解し、将来日本だけでなく、世界の福祉の様々な分野で活動するための基礎的な教養を身につけられる英語学習にする。 <p>[授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 平易な会話、エッセイ、英詩、物語、英字新聞やインターネットからの時事英語などを教材に使う。 2. それぞれのジャンルの英文について聞き方、話し方、読み方、書き方の基本と応用を演習する。 3. 語句や意味の奥にある意味を理解することを通して異文化理解の方法を学ぶ。 4. さまざまな場面で自己表現するための話し方や書き方を身につける。 5. 英文、英詩作り、ニュース作り、文集作りなどによって実践的な英語力を高める。 	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答やレポートおよびテストなど総合的に行う。</p>	

【授業科目名】総合英語 I-1、I-2	【担当者】中島好伸
【開講期】 1年 前期・後期	
<p>【授業目標】 英語の基本構造をマスターし、日常生活の簡単なコミュニケーションができるようにする。また、簡単な英文を素早く読みとり、書けるようにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 授業開示に指示</p>	
授 業 計 画	
<p>I-1では、まずは、英語力の自己診断を試みる。 その上で、英語の基本から振り返って、コミュニケーションができるように少しずつ表現法を増やしていこう。要になるのは動詞である。前期は日常使われる動詞を数多く修得しよう。be動詞とその他の動詞（動詞の意味と発音はもちろん、原形、過去形、過去分詞形も復習する）を修得すれば、主語＋動詞＋目的語で多くのことを表現できるものである。 動詞には性格（使い方）がある。バリエーションがあるから恐れることはない。 それに疑問文、否定文、助動詞くらいを修得すれば、基本はできた。あとは、多くの名詞だがこれは気長にやればよい。ここまでの勉強を授業の前半に行う。</p> <p>★この勉強の成果を毎週テストする。合格点は60点。</p> <p>授業の後半は、テキストを利用して、応用力を付けていこう。</p> <p>I-2では、読む力と書く力を修得するため、テキストを中心に表現法を増やしていく。</p> <p>英語の修得は持久力である。週1回の授業だけで英語がマスターできると思っはいけない。授業で学んだことを自主的に実践応用して行ってほしい。なるべく多く英語を聞くこと、できるだけ多く英語を（辞書を引きながら：学習用の英和辞典、和英辞典はいつも持ち歩くくらいの意欲が欲しい）読んで欲しい。前期で学習した動詞にどれだけの名詞を付けられるか、それは英文の読書量に比例するからである。</p> <p>不断の努力と継続的な出席、これが大切である。</p>	
<p>【評価方法】 毎週行う小テストと平常点（3分の2以上の出席が条件）</p>	

【授業科目名】 選択語学Ⅰ 海外語学研修	【担当者】 中島好伸
【開講期】 1年夏期集中（前期5回の事前指導を含む）	
【授業目標】 イギリス、リーズ市に3週間ホームステイし、メトロポリタン大学の語学研修プログラムに参加しながら、日常生活の英語に慣れ、積極的にネイティブ・スピーカーとコミュニケーションできるようにする。また、イギリスの文化に直接慣れ親しむ。	
【テキスト・参考書】 事前指導にて指示します。	
授 業 計 画	
<p>この科目は、保育科、福祉援助学科の総合英語2単位、心理学科、教養科の選択語学Ⅰの2単位に振り返ることができます。</p> <p>前期に5回（その他出発直前に1回）、渡航すべてに関わる事前指導を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パスポートの取得 ・渡航手続き ・イギリスの文化的知識の習得、現地生活に関するアドバイス ・基本的な英会話 <p>（事前指導等の連絡は教務掲示板を注意してみることに）</p> <p>英国リーズ市でホームステイし、リーズ・メトロポリタン大学の語学研修プログラムに3週間参加します。現地の授業は、ネイティブ・スピーカーによる小人数クラスで行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間8月5日～8月30日（予定は変更になることもあります） 8/5 成田出発→ロンドン・ヒースロー着 ロンドン泊 8/6 ロンドン市内観光 ロンドン泊 8/7 ロンドン→リーズへ移動 ホームステイ開始 8/9～8/26語学研修 8/27 リーズ→ロンドンへ移動 ロンドン泊 8/28 ロンドン市内観光 ロンドン泊 8/29 ロンドン・ヒースロー→ 8/30 成田着 <p>帰国後、反省会を行います。</p>	
【評価方法】 事前指導、語学研修の参加（修了証獲得）と帰国後のレポートにて評価	

【授業科目】 スポーツA (テニス)	【担当者】 池森隆虎
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>主にダブルスのゲームを楽しめるための技術、戦術、ルール、マナー等を身につける。 前半は初心者を対象にした基礎的な技術のレッスン、ミニゲームによる応用技術、戦術の獲得へと移行し、なるべく早い段階からゲームを行いルール、マナーの理解を深めたい。 後半はリーグ戦を行い、より高い技術、戦術の習得とテニスの楽しさを体験してほしい。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. オリエンテーションと実習のねらい</p> <p>(1)実習のねらい、展開、評価などについて</p> <p>(2)基本用語、基礎技術、ルール等の説明</p> <p>2. 基礎技術、技能の獲得</p> <p>(1)ラケット操作に慣れる、ボールの動きに慣れる</p> <p>(2)ストローク (フォアハンド&バックハンド)</p> <p> サービス (アンダー&オーバー)</p> <p> ボレー (ロー&ハイ)</p> <p> ロビング、スマッシュ等の基礎技術の練習</p> <p>(3)複合練習と簡易ゲーム</p> <p>3. 講義 (応用技術獲得の手がかりとして)</p> <p>(1)ルール、コートマナー、エチケット及び試合の進め方について</p> <p>(2)ダブルスペアの決定</p> <p>4. ゲーム技術の習得 (主にダブルスゲーム)</p> <p>(1)スポンジボールによるゲーム練習</p> <p>(2)ゲームの実践 (戦術、ポジション、コンビネーション)</p> <p>(3)ゲームの審判法の習得</p> <p>*雨天時には、屋内においてフリーテニス、卓球等を行います。</p> <p>*ラケットは貸し出しますが、持参してもしてもかまいません。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価点 (50点)... 実習参加への積極性、協調性、個人技能の向上 (実習初回から終了までの過程における個人の上達度)、ルール、マナーや実習内容の理解度</p> <p>出席点 (50点)... 欠席-6点、遅刻 (15分まで) -2点、早退-2点</p>	

【授業科目】 スポーツA (ダンス)	【担当者】 松村朋子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>エアロビクスダンスをアレンジしたコンビネーションの習得で、まずはダンスに親しむ。そして、用具を使わず、自分のからだだけで運動でき、更に、芸術的センスを磨くことのできるダンスを通じて、楽しみながら美しい身体をつくり、運動機能を高めることを目標とする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>使用しない</p>	
<p>【参考書】</p> <p>使用しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1. ストレッチ 身体全体を使って、自由に動けるように柔軟性を高める。 普段はあまり使わない筋肉を意識的に動かし、気持ちもダンスへ切り替える。</p> <p>2. コンビネーション サイドステップ、スキップ、走る、ジャンプなど簡単な動作を組み合わせた短いコンビネーションを習得する。 短いコンビネーションのいくつかを繋げて踊ってみる。</p> <p>3. ダンスプログラムの習得 コンビネーションを組み合わせて構成されたプログラムの振付けを覚える。 二人組やグループでフォーメーションを考えて、変化をつけてみる。</p> <p>4. ダンスプログラムの作成 今まで学んだ基本的なステップをどこかに使って、短いプログラムを創る。 全員で同じように踊るところと一人ひとりが動くところ、速い動きとゆっくりの動き、など変化に富んだ流れとなるように、グループで振付け・構成を考えて、発表する。</p> <p>*運動可能な服装・シューズで授業に出席すること。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席と授業態度を特に重視する。実技テストを行う予定。</p>	

<p>【授業科目名】 スポーツA バドミントン</p>	<p>【担当者】 岡田光弘</p>
<p>【開講期】 1 年 後期</p>	
<p>【授業目標】 * 練習の仕方、試合の仕方、観戦の仕方などを、 段階的に技術を学んでいくなかで、習得すること * 自分たちだけで試合ができるようになること</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="text-align: center;">特に指定しない</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p style="text-align: center;">自分たちだけで試合ができるように、以下の順で進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミニゲーム 2. ドリル 3. ダブルスでのゲーム 4. シングルスでのゲーム 5. セットイング形式でのゲーム <p style="text-align: center;">以下の技術についての基礎練習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サービス 2. クリア 3. ヘアピン 4. スマッシュ 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">・ 技術、態度、知識（小テスト）を評価する。</p>	

【授業科目名】 スポーツB (キャンプ)	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 前期 (集中)	
<p>【授業目標】</p> <p>自然環境の中での集団活動を通して、健康的な生活を営むための能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 野外活動に必要な知識と技能及び判断能力 ・ 健康的な「こころ」と「からだ」 ・ 自然を親しみ愛好する態度と野外活動への参加意欲 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 横山正幸、森本精造：教育キャンプ入門、北大路書房、1993年。 清水ケンゾー：楽しいアウトドア・ライフ、日東書院、1995年。 小菅知三：キャンプ大全集、成美堂、1990年。</p>	
授 業 計 画	
<p>生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然を活用した野外活動は、健康の増進やレクリエーションとしての効果が極めて大きい。しかし、野外での活動は、さまざまな自然的環境の影響を受けやすく、事故災害にもつながりやすい特性をもっている。</p> <p>そこで、この授業では、特に、自然環境にふれ合うことの楽しさや喜びを十分に体験するとともに、野外活動における適切な判断能力や将来に向けての意欲が得られるように留意して計画、実施する。</p> <p>1、日 程 1996年 6月下旬、7月下旬 事前活動 (学内) 8月4日(水)～ 8月7日(土) キャンプ実習 (現地) 8月8日(日) 事後活動 (学内)</p> <p>2、場 所 学内及び「山のふるさと村キャンプ場」 (東京都奥多摩町)</p> <p>3、参加者 学生24名、教員3名</p> <p>4、内 容 ①事前活動：運営組織・装備・食事等の計画・準備 ②キャンプ実習 第1日目：テント設営、水遊び、食事 第2日目：登山 (ハイキング)、食事 第3日目：ネイチャートレイル、木工、キャンプファイアー、食事 第4日目：食事、テント撤収 ③事後活動：装備の点検・補修、反省評価</p> <p>5、費 用 約10,000円 (食料費、交通費等)</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験 (レポート、実技等)</p>	

【授業科目名】 健康科学	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間性豊かで健康的な生活を確立するために必要な能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の健康問題と健康に対する考え方について ・健康の破壊と成立の条件について ・健康の設計と処方について 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 宇土正彦・正木健雄監修：青年の健康と運動、現代教育社、1995年。 国立大学等保健管理施設協議会編：学生と健康、南江堂、1996年。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間性豊かで健康的な生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践的な行動能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会的な環境に大きな影響をうけている。そして、その解決には、人間の生物学的側面はもとより、行動学的側面や環境的側面、保健医療体制的側面を抜きにしては考えられない。</p> <p>授業では、このような健康観に立って行動学的側面や環境的側面を中心に、疾病予防と健康増進の学問としての、新しい健康科学の知見や考え方について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、健康科学の概念 2、今日の健康問題 3、疾病の疫学と健康の成立条件 4、主体と健康 5、環境と健康 6、保健行動と健康 7、保健医療体制と健康 8、健康問題Ⅰ（アレルギー） 9、健康問題Ⅱ（ストレスと精神的健康、ダイオキシンと環境ホルモン） 10、健康問題Ⅲ（生活習慣病：がん、脳卒中、虚血性心疾患、糖尿病） 11、健康問題Ⅳ（薬害：サリドマイド、スモン、エイズ） 12、健康生活の設計と処方 	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（小レポート）</p>	

【授業科目名】 スポーツ科学

【担当者】 岡田光弘

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

- ・ スポーツを見て楽しめるようになること、
スポーツをしてみたいくなること
- ・ スポーツを社会現象として、批判的に見る眼を養うこと

【テキスト・参考書】

AERA MOOK「スポーツ学のみかた」朝日新聞社

日本プロテニス協会編「テニス教本」スキージャーナル 1994

授 業 計 画

以下のようなトピックを扱う。

1. スポーツと科学：スポーツ科学の全体像
2. ジャンプ競技と揚抗比
3. ポブスレーとクロストレーニング
4. スポーツの技術・道具の変化と科学
5. 滑降競技と乳酸
6. 滑降競技と環境問題
7. ドーピング問題と日常生活
8. スポーツとアイデンティティ：ラクロス、カーリング
9. スポーツとルール
10. スポーツと遊び
11. スポーツ解説と分析

【評価方法】

各時間ごとの提出物と期末のレポートで評価する。

專門教育科目（1年）

【授業科目】 社会福祉概論Ⅰ	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1 年 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①現代社会における社会福祉の意義・理念、社会福祉の基本的な考え方、②社会福祉の形成・発展過程及び社会福祉の推進要因、③社会福祉の法体系・制度及び財政全体の要旨、運営組織、福祉の措置、運営全体の概要、④社会福祉の基礎とする社会保障制度（所得、医療、住宅、雇用及び公的扶助など）の概要、である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識を身につける。</p>																															
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座1 社会福祉概論』中央法規、1999年。</p>																															
<p>【参考書】</p> <p>講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>																															
<p>授 業 計 画</p>																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 私たちの暮らしと社会福祉</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉とは何か。</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉の概念のとらえ方</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. イギリスの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. アメリカの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. スウェーデンの社会福祉</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会事業成立以前</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会事業成立期</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 戦後社会福祉の展開</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 社会福祉の法制</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 所得保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 医療保障制度</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. その他社会保障関連制度</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 社会福祉行政</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 社会福祉の財政</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)	2. 社会福祉とは何か。	(第2回)	3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)	4. イギリスの社会福祉	(第4回)	5. アメリカの社会福祉	(第5回)	6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)	7. 社会事業成立以前	(第7回)	8. 社会事業成立期	(第8回)	9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)	10. 社会福祉の法制	(第10回)	11. 所得保障制度	(第11回)	12. 医療保障制度	(第12回)	13. その他社会保障関連制度	(第13回)	14. 社会福祉行政	(第14回)	15. 社会福祉の財政	(第15回)
1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)																														
2. 社会福祉とは何か。	(第2回)																														
3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)																														
4. イギリスの社会福祉	(第4回)																														
5. アメリカの社会福祉	(第5回)																														
6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)																														
7. 社会事業成立以前	(第7回)																														
8. 社会事業成立期	(第8回)																														
9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)																														
10. 社会福祉の法制	(第10回)																														
11. 所得保障制度	(第11回)																														
12. 医療保障制度	(第12回)																														
13. その他社会保障関連制度	(第13回)																														
14. 社会福祉行政	(第14回)																														
15. 社会福祉の財政	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p>試験と出席状況。</p>																															

【授業科目】 社会福祉概論Ⅱ	【担当者】 市川一宏・鍾 家新																														
【開講期】 1 年 後期																															
<p>【授業目標】 本講義は、つぎの諸項目に関する理解を深めることを目標とする。これらは、①社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、②公務専門職員および民間専門職員による福祉活動や福祉社会確立の必要性、③社会福祉援助技術の概要および動向、④社会福祉の専門職の概要と福祉資格法の必要性および倫理的諸問題、⑤福祉ニーズとその変容、⑥在宅・地域福祉の台頭や民間サービス、⑦社会福祉をめぐる国内外の近年の動向、である。本講義の受講によって、学生たちは、福祉援助者として社会福祉に関する必要な知識と能力を得ることができる。</p>																															
<p>【テキスト】 福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座 1 社会福祉概論』中央法規、1999年。</p>																															
<p>【参考書】 講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。</p>																															
授 業 計 画																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">1. 社会福祉の主体</td> <td style="width: 20%; text-align: right;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉ニーズとは何か。</td> <td style="text-align: right;">(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉ニーズの把握</td> <td style="text-align: right;">(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉援助の意味</td> <td style="text-align: right;">(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉の援助形態</td> <td style="text-align: right;">(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の援助方法</td> <td style="text-align: right;">(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉の専門性と業務内容</td> <td style="text-align: right;">(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会福祉専門職の倫理</td> <td style="text-align: right;">(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 介護ニーズの社会的増大</td> <td style="text-align: right;">(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 福祉士法の社会的意義</td> <td style="text-align: right;">(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 福祉士法の全体的内容</td> <td style="text-align: right;">(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 少子化・高齢化の進展と介護問題への各国の対応</td> <td style="text-align: right;">(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向</td> <td style="text-align: right;">(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 21世紀の社会福祉に向けて</td> <td style="text-align: right;">(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 総括</td> <td style="text-align: right;">(第15回)</td> </tr> </table>		1. 社会福祉の主体	(第1回)	2. 社会福祉ニーズとは何か。	(第2回)	3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)	4. 社会福祉援助の意味	(第4回)	5. 社会福祉の援助形態	(第5回)	6. 社会福祉の援助方法	(第6回)	7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)	8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)	9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)	10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)	11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)	12. 少子化・高齢化の進展と介護問題への各国の対応	(第12回)	13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)	14. 21世紀の社会福祉に向けて	(第14回)	15. 総括	(第15回)
1. 社会福祉の主体	(第1回)																														
2. 社会福祉ニーズとは何か。	(第2回)																														
3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)																														
4. 社会福祉援助の意味	(第4回)																														
5. 社会福祉の援助形態	(第5回)																														
6. 社会福祉の援助方法	(第6回)																														
7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)																														
8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)																														
9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)																														
10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)																														
11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)																														
12. 少子化・高齢化の進展と介護問題への各国の対応	(第12回)																														
13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)																														
14. 21世紀の社会福祉に向けて	(第14回)																														
15. 総括	(第15回)																														
<p>【評価方法】 試験と出席状況。</p>																															

【授業科目名】 老人福祉論

【担当者】 佐野 英司

【開講期】 福祉援助学科 1年 後期

【授業目標】

老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを目標に授業を進めていきます。

1. 老人福祉の社会的背景について学びます。
2. 老人福祉の理念・目的を学びます。
3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学びます。
4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学びます。
また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。
5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考えます。

【参考図書】

「老いと暮らす」 (岩波書店・安田陸男著)

「老いを生ききる」 (法蔵館・田邊順一著)

その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。

【授業の進め方】

上記授業目標にそって、授業の度にプリントを配り、それに基づいて授業を進めていきます。

授業のはじめと終わりにミニレポートを書いてもらい、自らその日に学んだ事柄の確認ができるよう努めます。(7月はじめにまとめて返却します)

授業は、定時に始めます。講義は70分程度でおさめる努力をします。最初の7分間で、その日の授業について考えることをミニレポートで書き、それで出席確認をします。授業の合間になるべくビデオや小グループによるディスカッションを取り入れ、最後の10分間で自分自身の授業のまとめレポートを書きます。またアンケートにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。クラスによっては1限目ですが、遅刻しないよう頑張ってくださいと願います。

70分授業を進めるためには、事前自己学習も必要ですし、補講も含めた授業回数15回の確保は必要となります。学生のみなさんと共に力を合わせ、迫力ある、心に残る授業をつくっていききたいと願っています。

【評価方法】

毎授業の度に提出するミニレポートと出席状況(平常点)20パーセント、定期試験(レポートです)80パーセントの総合点で評価します。

したがって、出席、遅刻は非常に重視します。

【授業科目名】 リハビリテーション論	【担当者】 菊池恵美子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。 2. 障害の分類とその意味、必要な援助法を理解する。 3. リハビリテーションに関わる専門職種の役割と機能を理解する。 4. 対象者の疾患特性に応じた介護の知識と技法を学ぶ。 5. 介護に必要な福祉用具についてその種類と適応を学ぶ。 	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>教科書：三訂介護福祉士養成講座4 リハビリテーション論 中央法規1997 参考書：松村 秩編，生活リハビリテーションマニュアル，中央法規，1992</p>	
授 業 計 画	
<p>授業目標に対応した授業計画を以下に示す（講義は2コマ連続）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入（リハビリテーションの意味・歴史・障害とは？） 2. リハビリテーションの体系と方法（関連機関・関連職種の機能） 3. リハビリテーションの分野で使われている評価法 4. 日常生活活動と介助法（実技） 5. 障害の診かた（片まひ・パーキンソン他） 6. 高齢者の心身機能の特性と体力評価（実技） 7. 介護に必要な福祉用具の種類と使用方法 8. まとめとテスト <p style="text-align: center;">毎回生活リハビリテーションと介護に関するVTRを使用する</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>評価：筆記試験100% 出席：学則に従う</p>	

【授業科目】 老人の心理	【担当者】 長田由紀子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、高齢者の心理的特徴を理解することにより、偏見を取り除き、より客観的に高齢者を捉えられるようにする。そして、年をとれば誰にでも起こる変化と病気などが原因で起こる変化を区別し、現実に行っている変化をどのように捉えたらよいか、どう対処したらよいかを考えられるようにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>長嶋紀一・佐藤清公(編) 老人心理学 建帛社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>1 老化の概念</p> <p>老人について学ぶにあたり、老化や老年期といった言葉の定義、使われ方、また老化はどうして起こるかなどについて知る。</p> <p>2 感覚・知覚の加齢変化</p> <p>視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能、および知覚機能が、加齢とともにどのように変化するのか、その結果起こってくる日常生活での問題、それに対する対応について考える。</p> <p>3 記憶の加齢変化</p> <p>記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下している高齢者への対応や、記憶の低下による失敗を少なくするためにはどうしたらよいかを考える。</p> <p>4 学習能力の加齢変化</p> <p>高齢者の学習を効果的に行うためにはどうしたらよいかを考える。また、学習の成果を捉える際の注意点として、個人差の考え方を理解する。</p> <p>5 知的機能の老化</p> <p>正常な知能の加齢変化の特徴を知るとともに、これまでに研究方法によって異なる結果が示されてきたことから、研究方法の特徴および重要性を理解する。さらに異常な知能の低下状態としての老年期痴呆について学ぶ。</p> <p>6 高齢者の人格</p> <p>高齢者の人格に関するこれまでの誤った捉えられ方、その背景について考える。また、高齢者の人格を理解するために人格の変容には何が影響しているかを知る。</p>	
<p>【評価方法】 試験・授業への取り組み方等から総合的に評価する</p>	

【授業科目】 家政学概論	【担当者】 中川英子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>「家政学」は家庭生活を中心とした人間生活について現代的課題を研究している学問である。またその領域には家庭経営・管理、食生活、被服生活、住生活の4つの専門分野（他に児童）を含んでいて、実践的総合科学ともいわれている。一方、介護福祉士養成のための必修科目として位置づけられている「家政学概論」では、これら4つの専門分野の内容を網羅して学ぶことによって、介護の基礎となる生活全般の意義を理解し管理する能力を養うこと、延いては介護福祉士としての実践能力をもつ人材を育成することを目標としている。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>介護福祉士養成講座8 「家政学概論」 福祉士養成講座編集委員会・編 中央法規出版（株）1998年</p>	
<p>【参考書】</p> <p>図説 家庭科資料集 岩崎芳枝 監ほか 実教出版（株）1998年</p>	
授 業 計 画	
<p>4つの専門分野（前述）を概説する。ただし各専門分野の授業内容については他の家政学関連の必修科目と重複しない部分を中心に授業を進める。また重複する部分については指定した個所のレポート提出と授業での補足説明によって各自が学習内容の再確認をする。</p> <p>第 1 回 ガイダンス 第2～5回 家庭生活の経営と管理 ：家庭生活にかかわる基本的知識をふまえたうえで、家庭生活の意義や現代的課題を考える。同時に高齢者や障害者の家庭生活にも理解を深める。 1) 家庭生活の意義と現代的課題 2) 家庭生活と家庭経営 3) 家庭生活と家庭管理 4) 家庭経済</p> <p>第6～8回 栄養と調理 ：栄養や調理など基本的な知識をふまえたうえで、食生活の意義や今日的課題を考える。さらに高齢者や障害者の身体的特性を理解したうえでその食生活を考える。 1) 生活と食事 2) 食事形態 3) 食生活と栄養・健康 4) 高齢者・障害児者と栄養・調理</p> <p>第9～11回 被服生活 ：被服についての基本的な知識をふまえたうえで、被服生活の意義を考える。さらに保健・衛生的で生活に適応的なことが最も要求される高齢者や障害者の被服生活について考える。 1) 被服の役割と機能 2) 被服の素材と品質 3) 被服と皮膚衛生 4) 被服の選択と管理 5) 高齢者・障害児者と被服</p> <p>第12～13回 住生活 ：「家庭生活の容器」というべき住居について生活するひとの行動を環境面から理解したうえで住生活の意義を考える。さらに高齢者や障害者にとっての快適な住まいや、よりよい住まい方について考える。 1) 住居の役割と機能 2) 生活行動と生活空間 3) 快適な室内環境 4) 住居の管理と安全 5) 高齢者・障害児者と住居</p> <p>第 14 回 総括および介護福祉士国家試験問題「家政学概論」のチェック 第 15 回 試験</p> <p style="text-align: right;">註）上記の授業計画は、授業の実施回数によっては変更もありうる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>期末テスト、レポート（3回）の評価に加えて、授業態度や出席率も評価の対象とする。</p>	

【担当科目】	介護概論 I	【担当者】	関谷 榮子
【開講期】	1 年 前 期		
【授業 目標】	1. 介護の目的と機能、介護援助の基本原則を理解する。 2. 人間の発達と自立的生活の過程についての知識を持ち、高齢者や障害者の介護並びにその家庭に対する援助について学ぶ。 3. 介護を行うに際して必要な援助方法の理論と実際を学ぶ。		
【テキスト】	テキスト 介護概論 メジカルフレンド社		
【参考書】	講義の中で随時紹介する。		
授 業 計 画			
1. 介護の概念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護の目的・定義（社会福祉士・介護福祉士法） 2) 介護の倫理（職業倫理、守秘義務、信用失墜行為の禁止） 3) 介護の領域 4) 介護の歴史 2. 介護援助の方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護援助の原則（人間の尊重、自立支援） 2) 介護援助関係（自己決定、自己選択） 3) 介護過程 4) 介護援助技術（観察、コミュニケーション、記録、報告） 3. 介護援助の対象 <ol style="list-style-type: none"> 1) 利用者の理解 2) 利用者の援助課題 4. 介護管理 <ol style="list-style-type: none"> 1) 環境の整備 2) 安楽と安全 3) 社会生活の維持と拡大 4) 生活リズムと健康習慣の維持 5) 労働安全、事故防止 			
【評価方法】	レポート 及びペーパー試験		

【担当科目】 介 護 概 論 Ⅱ	【担当者】 関谷 榮子
【 開 講 期 】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護を必要とする人たちの身体・精神的健康状態の変化に対応した、介護関係の進め方及び関係職種との連携の方法を学ぶ。 2. 介護と家政、看護・医療など関係領域や関係職種との連携について理解する。 3. 個別介護計画及び、ケアプランの作成方法を学び、ケア・マネージメントについて理解する。 4. 介護サービス提供の場について理解する。 5. 自己の介護観を確立する。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">テキスト 介護概論 メジカルフレンド社</p>	
<p>【参考書】 講義の中で随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護と家政、看護・医療との関係及び範囲について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自立的な生活維持に対するニーズと介護の機能 2) 健康のメカニズムと健康障害時のニーズと介護の役割 3) 高齢者、障害者（児）の生活障害と介護の役割 2. 関係機関との連携・連絡・協力の意義と方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療関係者との連携・協力方法とあり方 2) 他の福祉従事者との連携・協力方法 3) 地域における福祉関係者との連携・協力方法 3. 個別介護計画のたて方、ケアプランのたて方と応用方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護計画と記録の方法、その活用の方法、評価方法 2) ケースカンファレンスの方法 3) ケア・マネージメントの方法 4) ケアプランの作成方法と応用方法 4. 介護活動の場に特有の問題と技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入居型福祉施設（長期、短期、） 2) 居宅型福祉施設（在宅支援センター、デイサービス、ホームヘルプサービスなど） 5. 介護観の確立へ向けての自己学習の設定 	
<p>【評価方法】 レポート 及びペーパー試験</p>	

【授業科目】 介護技術Ⅰ	【担当者】 中山幸代																								
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期																									
<p>【授業目標】</p> <p>介護技術は介護の目的に基づき利用者の介護上の問題を解決するために、知識や技能を意図的に適応し応用する援助の手法である。</p> <p>介護技術の習得に際しては、①それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ、②利用者の自立と安全・安楽を配慮した基礎的介護技術ができることを目標とする。</p>																									
<p>【テキスト】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『三訂介護福祉士養成講座 13 介護技術』、中央法規出版</p> <hr/> <p>【参考書】</p>																									
授 業 計 画																									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">No.</th> <th style="width: 45%;">項 目</th> <th style="width: 50%;">実 技 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>観察</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>居住環境の整備</td> <td>ベットメイキング、シーツ交換</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会生活維持拡大への介護 (ボディメカニクス、安楽な姿勢・体位、移動動作、腰痛体操)</td> <td>安楽な体位の工夫、移動動作 車椅子への移乗・操作、腰痛予防 体操</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>衣服の選択と着脱の介護</td> <td>寝衣・衣服の着脱</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>食事の介護</td> <td>食事介助</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>身体の清潔の介護</td> <td>洗面・髭剃り、部分浴・全身清拭 入浴介助</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>排泄の介護</td> <td>おむつの交換、便・尿器の当て方 ポータブルトイレの介助</td> </tr> </tbody> </table>		No.	項 目	実 技 内 容	1	観察		2	居住環境の整備	ベットメイキング、シーツ交換	3	社会生活維持拡大への介護 (ボディメカニクス、安楽な姿勢・体位、移動動作、腰痛体操)	安楽な体位の工夫、移動動作 車椅子への移乗・操作、腰痛予防 体操	4	衣服の選択と着脱の介護	寝衣・衣服の着脱	5	食事の介護	食事介助	6	身体の清潔の介護	洗面・髭剃り、部分浴・全身清拭 入浴介助	7	排泄の介護	おむつの交換、便・尿器の当て方 ポータブルトイレの介助
No.	項 目	実 技 内 容																							
1	観察																								
2	居住環境の整備	ベットメイキング、シーツ交換																							
3	社会生活維持拡大への介護 (ボディメカニクス、安楽な姿勢・体位、移動動作、腰痛体操)	安楽な体位の工夫、移動動作 車椅子への移乗・操作、腰痛予防 体操																							
4	衣服の選択と着脱の介護	寝衣・衣服の着脱																							
5	食事の介護	食事介助																							
6	身体の清潔の介護	洗面・髭剃り、部分浴・全身清拭 入浴介助																							
7	排泄の介護	おむつの交換、便・尿器の当て方 ポータブルトイレの介助																							
<p>【評価方法】</p> <p>課題レポートとペーパーテストにより評価する。</p>																									

【授業科目】 障害形態別介護技術Ⅰ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>まず、人体の解剖生理学を学ぶ。次に肢体不自由や内部障害及び加齢による障害とは何かの理解を通して、それらから派生する生活障害についての理解を深める。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>からだの構造と機能 西村書店</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の解剖学 -- 身体各部の名称と構成の理解 2. 人体の生理学 -- 身体各部の機能の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳、神経系 2) 循環器系 3) 呼吸器系 4) 消化器系 5) 泌尿器系 6) 生殖器系 7) 内分泌系 8) 血液系 9) 感覚系 10) 運動系 3. 肢体不自由や内部障害の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 脳卒中後遺症による肢体不自由 2) 脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチ等による肢体不自由 3) 心機能障害 4) 呼吸機能障害 5) 腎機能障害 6) 消化機能障害 4. 高齢者の心身機能障害に対する理解 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

【担当科目】 障害形態別介護技術(肢体不自由/内部障害) I	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 1 年 前 期	
【授業 目標】 肢体不自由者・児及び内部障害者の生活障害を総合的に理解する。 肢体不自由者・児及び内部障害者の日常生活上の介護援助の技法を学ぶ。 福祉機器・用具の知識と活用方法を習得する。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 障害を持つ人々の心理や障害に応じた自己実現及び生活支援の方法を学ぶ。 2. 肢体不自由者・児、内部障害者の精神的・身体的状況を理解し、介護の方法を学ぶ。 3. 脳神経疾患、内部障害、骨関節疾患、難病患者などの介護方法を学ぶ。 4. 心身障害者（児）、重複障害者（児）の介護方法を学ぶ。 5. 福祉機器の活用方法を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者・肢体不自由者とはどのような人かを学ぶ。 ・ 障害をもつ人の生活の特徴を知る。 ・ 障害を持つ人の介護援助の方法について学ぶ。 	
【評価方法】 レポート、及びペーパー試験	

【担当科目】 障害形態別介護技術(高齢者の介護) I	【担当者】 木下安子・関谷榮子
【開講期】 1 年 前 期	
【授業 目標】 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の生活障害を総合的に理解する。 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者に対する日常生活上の介護・援助技法を学ぶ。 福祉機器・用具の知識と活用方法を習得する。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の生活を総合的に理解する。 2. 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の精神的・身体的状況を理解し、彼らの生活障害の特徴を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・老いるとはどういうことか、 ・老いの体験 ・老いを受容することとはどういうことか 3. 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者に対する介護・援助の目的と方法を学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援、残存機能の活用 ・生活の質 (クオリティオブライフ) ・理解と共感、コミュニケーション ・安楽と安全の原則 4. 高齢者の生活障害を改善するために必要な福祉機器について理解し、活用方法を学ぶ。 5. 具体的な高齢者の事例 (ビデオ、参考書、資料など) によって理解を深める。 6. 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の生活実態を体験的に学ぶ。 <p>＜授業の進め方＞</p> <p>講義のみでなく、参考文献やボランティア活動体験などに基づいて、グループ討議など各自の意見を出し合い演習方法を取り入れて理解を深める。</p>	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【担当科目】 介護実習 I	【担当者】 関谷 榮子・中山 幸代・新井 幸恵・西方 規恵・吉沼 孝子
【 開講期 】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>実習第 I 期（見学実習）</p> <p>(1) 利用者が施設を利用することになった経過や現在の生活状況を把握し、個別的な介護がどのように行われているかを知る。</p> <p>(2) 施設における介護職員の役割を理解し基礎的な介護技術を習得する。</p> <p>(3) 施設職員の職種と業務内容を知る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>実 習 計 画</p>	
<p>1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、サービス内容、諸注意などについて把握し理解する。</p> <p>2. 介護者の援助の視点と方法を把握し、施設職員にふさわしい態度を身につける。</p> <p>3. 利用者について理解する。</p> <p>4. 利用者とのコミュニケーションの方法を習得する。</p> <p>5. ボディランゲージなどの非言語的コミュニケーションの有効な活用方法を習得する。</p> <p>6. 日常生活の援助の方法を習得する。</p> <p>7. 利用者に行われている介護技術の目的と意義を理解し基礎的な介護技術を実践する。</p> <p>実習期間 平成11年11月8日から27日までの18日間</p> <p>実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【担当科目】 介護実習 II	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】 1 年 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>実習第II期（参加実習）</p> <p>(1) 利用者の障害のレベルと内容に応じた介護技術を習得する。</p> <p>(2) 施設における他職種の業務の実際について学び連携方法を知る。</p> <p>(3) 地域社会における施設の役割を理解し在宅福祉サービスの各事業とその機能について学ぶ。</p> <p>(4) 受け持ち利用者を選定しアセスメント（情報収集と介護上の問題の明確化）ができる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>実 習 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の沿革、方針、建物の構造、業務内容、職員の勤務体制、サービス内容、諸注意などについて把握し理解する。 2. 利用者の障害に応じた個別的な介護技術を習得する。 3. 他職種との連携方法を学ぶ 生活指導員、意志、看護婦、栄養士、調理師、理学療法士、作業療法士、の業務を見学しそれぞれの職種の役割を知る。また介護職員との連携の方法を学ぶ。 4. 地域における施設の役割を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ショートステイ、デイサービス、入浴サービス在宅介護支援センターのきのうについて学ぶ。 5. 受け持ち利用者のアセスメントの方法を学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習終了までに実習指導者の助言を得て受け持ち利用者の情報収集をする。 2) 受け持ち利用者の介護上の問題を把握する。 その際には利用者の持つ力を信じてその力を引き出し強めるような援助の視点を重視する。 6. ケース会議に参加し利用者のケアプランが作成評価される過程を学ぶ。 7. 行事・レクリエーション活動への参加 行事レクリエーション活動に参加し、企画・実施・評価のプロセスを学ぶ。 <p>実習期間 平成12年2月21日から3月11日までの18日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【担当科目】 実習指導	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】 1 年 前 ・ 後 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>(1) 体験学習の意義と重要性について理解する。</p> <p>(2) 体験学習を通じて知識・技術、態度を具体的に実際的に応用する能力を身につける。</p> <p>(3) 学校内において習得した諸学習を応用し施設実習において実践的な技術を体得する。</p> <p>(4) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。</p> <p>(5) 個別介護計画を立てて実施し評価する方法を学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">実習要項他</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p><前期></p> <p>1. 実習第Ⅰ期に向けての準備</p> <p>1) 課題レポートのグループ討議</p> <p>2) 学内における介護技術実習</p> <p>3) 施設見学</p> <p>4) 配属施設の決定</p> <p><後期></p> <p>1. 実習第Ⅰ期に向けての準備</p> <p>1) 実習前のオリエンテーション</p> <p>・実習目的の理解</p> <p>・学生の自己学習目標をたてる。</p> <p>2) 実習の注意</p> <p>・プライバシー保護</p> <p>・見学実習の意義</p> <p>3) 事前学習、事前オリエンテーション</p> <p>4) 実習記録</p> <p>・記録の意義と書き方</p> <p>・記録の取扱い方</p> <p style="text-align: right;">— 第Ⅰ期介護実習（11月8日～11月21日まで）—</p> <p>3. 第Ⅰ期実習後のスーパービジョン</p> <p>1) グループスーパービジョン</p> <p>2) 記録の評価</p> <p>3) 実習のまとめ 自己評価</p> <p>4) 個別面接</p> <p>4. 第Ⅱ期実習に向けての準備</p> <p>1) 配属施設の決定</p> <p>2) 介護過程（介護計画の立案、実施、評価）についての学習</p> <p>3) 個別面接</p> <p>5. 第Ⅱ期実習後のスーパービジョン</p> <p>1) グループ討議</p> <p>2) 実習のまとめ</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【授業科目】 家族福祉論	【担当者】 杉本一義
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人生福祉の視座から、現代社会の性格、家庭生活の問題を捉え、生涯にわたる家族福祉の意義、理念、課題、家庭福祉のあり方、福祉の施策、援助方法を文献的、体験的に学習し実践力を養う。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>杉本一義著 『人間福祉の探求』 永田文昌堂 ￥2400</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>はじめに</p> <p>問題意識：人生福祉の視座から家族福祉のあり方を探求する。</p> <p>I 家族福祉の人生福祉的発想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、人生四季と生涯学習：生成期、自立期、安定期、受容期の特徴 2、人間存在の方式と福祉援助の体系：生物・文化社会・存在・洞察と行為・直接と間接 3、人生福祉と人生態度：福祉観の推移、人生福祉の意義、自己実現 <p>II 現代社会と家族問題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、現代社会の性格：競争原理と協力原理、価値観の多様化、哲学の貧困 2、家族構成と役割機能：単身、少子、母子、父子、高齢者の家庭 3、現代家族の問題状況：離婚、疾病、失業、障害、世代間の断絶 <p>III 家族福祉と支援体制</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、児童福祉と家族福祉：子育て支援、家庭教育、学校、社会教育と福祉援助 2、福祉施策と福祉施設：保育・障害児童・高齢者対策と各種施設 3、在宅福祉と地域福祉：個人差、地域性、選択権の保障と調整機能 <p>IV 福祉援助の実践展開</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、家族福祉の根本目標：人間性の活性化、自己実現、相互主体的生活空間 2、福祉臨床（ケースワーク）と教育臨床（カウンセリング）の統合的実践 3、家族福祉の事例研究：生活適応と生活指針 <p>* 自分自身の生活適応の状況の「離見」</p> <p>* ロールプレイ、グループ討議</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>日常の学習態度、レポート、筆記試験の総合評価</p>	

【授業科目】 ボランティア論	【担当者】 根本嘉昭
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>ボランティア活動の歴史について理解する。 現代社会におけるボランティア活動の諸相について知る。 ボランティア活動の意義・役割・課題について学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>適当なものがないので、適宜、資料を配布します。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業中に紹介します。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>ボランティアとは何か。その内容、性格などを明確に定義することは相当に難しい作業です。論者によっては、定義することの「害」を説く人もいるほどです。ボランティア活動の実践主体、ボランティア活動の分野、ボランティアに対する思いや価値観だけを見ても、単純ではありません。阪神・淡路大震災におけるボランティア活動は、それ以前のものとは量的にも質的にも一線を画す展開をし、ボランティアの在り方をめぐって多くの問題を提起する契機となりました。昨年制定・実施された特定非営利活動促進法（NPO法）や来年から実施に移される「介護保険制度」、また現在話題となっている「社会福祉の基礎構造改革」のなかでも、ボランティア活動に対する期待は決して小さなものではありません。一方、国際的なボランティア活動についても、多彩な活動が展開されていますが、これも多くの問題をなげかけています。これらのすべてについて掌握し、分析・解説できる力量を現在の私は持っていませんが、これまでの勤務経験を踏まえ、社会福祉分野におけるボランティア活動を中心に、国内外の動きをいくつか紹介しつつ、その思想・理念、あるべき姿などについて一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p>「授業計画」については参加される皆さんの状況を見ながら、具体化したいと思っていますが、現在大きな柱として、以下のようなことを考えています。</p> <p>なお、可能な限りビデオ等の活用や施設見学なども実施したいと思います。</p> <p>I 激動する社会福祉とボランティアへの期待 II ボランティア活動の諸相・実態 III 福祉教育とボランティア IV ボランティア活動の意義・役割・課題</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への参加態度とレポートによる。</p>	

【授業科目】 発達心理学	【担当者】 吉川はる奈
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>乳児期から児童期の成熟と発達を中心に学ぶ。具体的には乳幼児期の発達観察の方法，児童期の学習，知能の形成，コミュニケーションの発達と障害，発達の支援方法などを，家庭，幼稚園，学校での実際の子どもの姿に結びつけていくことを目指す。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示します。プリントも必要に応じて配布します。</p>	
<p>【参考書】</p> <p>授業時に指示しますので各自勉強して下さい。</p>	
授 業 計 画	
<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 ひとの出生時の状態と発達の可能性</p> <p>第3回 乳児期の発達</p> <p>第4回 対人世界の基礎；愛着の形成</p> <p>第5回 前言語的コミュニケーション</p> <p>第6回 コミュニケーションの発達と障害</p> <p>第7回 幼児期の知能の発達</p> <p>第8回 遊び；仲間集団との関わり</p> <p>第9回 子どもの姿の観察・方法</p> <p>第10回 幼稚園での子どもたちの実際と問題</p> <p>第11回 学校での子どもたちの実際と問題</p> <p>第12回 地域での発達支援の方法</p> <p>第13回 まとめ</p> <p>＊講義の中で具体的に理解していくためにVTR，スライドなど視聴覚教材も積極的に活用していきます。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>講義への出席，小レポート，さらに期末レポートを参考にします。</p>	

【授業科目】 保育文化論	【担当者】 八木 紘一郎
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、あえて、子どもをとりまく既存のさまざまな表現文化環境を概観し、保育の場における文化的影響を探求する。これらを通して、個人差や個性などの差異のある子どもの自己の存在感、表現者としての覚知、自己表現の方法と技術を身につけていく過程と、その援助方法について基本的な理解をさせ、それに基づいて、世代やライフスタイルの違いなどの差異をもった人々の協同的な表現文化活動の実現について理解を広げさせる。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育文化を考える意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> 現代社会における表現文化環境とその影響 保育文化が抱える課題と役割 子どもの表現を通して考える問題 2. 表現行動の意味理解について <ul style="list-style-type: none"> 表現行動の意味理解 造形的表現の意味 3. 表現の変容過程 <ul style="list-style-type: none"> 表現者としての変容過程 描画表現の変容過程の解釈 4. 表現文化活動の援助方法 <ul style="list-style-type: none"> 造形による表現活動の援助法 多様な表現メディアによる表現活動の援助法 	
【評価方法】	

【授業科目名】 音楽とダンス	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1年 前期 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>リズムカルに身体を動かしたり、身体で表現する活動を通して、踊る楽しさや表現する喜びを体験し、表現力を高め、その文化的、教育的価値を認識する。また、それらの表現により自己の存在感を充たし、表現意欲を育む援助の仕方を学ぶ。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で見られる身体表現とダンス ・身体表現の発達段階に見られる特徴 ・人間はなぜ踊るか ・ダンスの特性と意義 <p>(2) 身体表現・ダンスの技術・方法の習得を通して踊る楽しさ、表現の喜びを味わう</p> <ol style="list-style-type: none"> ①リズムカルに身体を動かすことを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・フォークダンス ・体操・音楽によってリズムカルにのびのび動く ②歌いながらリズムカルに表現力豊かに動くことを楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌を伴ったあそび ③身体で自由に表現することを楽しむ <p>(3) 身体表現・ダンスの援助の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共に身体を動かし楽しむ ・あるがままを受け止め気持ちを共有する ・豊かな感性、創造的な援助 	
<p>【評価方法】</p> <p>実技試験および平常点</p>	

[授業科目名] 音楽とダンス	[担当者] 秋山治子
[開講期] 1年 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input checked="" type="checkbox"/>	
<p>[授業目標]</p> <p>心が豊かになれる音楽と音楽活動について話し合い実践したい</p> <p>授業は高齢者に人気のある大正琴を弾いたり実際に音楽することを通して人と音楽のつながりについて理解を深め、出来るだけ実践的に楽しく進めていく予定である</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>授業の中で適宜指定する</p>	
授業計画	
<p>1</p> <p>2</p> <p>3～7</p> <p>8、9</p> <p>10～13</p> <p>14</p> <p>15</p>	<p>大正琴を知る。</p> <p>自分たちのテーマ・コーラスを選び、歌い、歌う気分の良さを味わう</p> <p>大正琴に親しみ鳴らしてみる。大正琴による合奏にも挑戦してみる。</p> <p>テーマ・コーラスを歌う。</p> <p>いろいろな楽器を知り、重さや音色を確かめてみる、奏法を学ぶ。</p> <p>高齢者施設における音楽療法を考える、読む、知る、実践をみる。</p> <p>歌謡曲やポップスやこどもの歌や学校唱歌などを歌い、“旋律”の中にあるリズム等について話し合ったり、歌詞を読み合う</p> <p>* 高齢者を理解するひとつの方法として、その人の好む歌を覚え、歌えるようになることが挙げられる、というミュージック・セラピストの言葉を参考にしながら歌ってみよう</p> <p>歌の時代背景について調べる</p> <p>テスト</p> <p>人の心を豊かにする音楽やミュージック・セラピーについて話し合う</p>
<p>[評価方法]</p> <p>1 授業にたいする取組み方、</p> <p>2 テスト</p>	

【授業科目】 遊びの造形	【担当者】 八木 紘一郎・ 枝常 弘
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>遊びや生活を潤す創意工夫と意欲が減退しがちな状況と環境の中で、積極的に自らの手と思考によって、心身の活性化を促す遊びを創出し享受する技術および援助方法を修得させる。具体的には、身近な素材や用具を使い、個人及び集団でゲーム的な遊び、ストーリー的な遊びを創作するアイデアと娯楽的要素をもった援助方法を演習及び実習で身につけさせる。</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>1. 造形と遊びの関係 現代社会における造形と遊びの意義 造形と遊びの原理 造形遊びの種類と特性</p> <p>2. ストーリー性のある遊び ストーリー性のある遊びの種類としくみ 指導の仕方</p> <p>3. 物理的な力を利用する遊び 物理的な力を利用する遊びの種類 その楽しみ方と指導方法 飛ばす、ころがす、回転させる、浮力を使う、当てる、倒す、</p> <p>4. ゲーム的な遊び 物理的な力を原理にしたゲームの工夫 楽しみ方と指導の仕方</p>	
【評価方法】	

專門教育科目（2年）

【授業科目】 障害児・者福祉論	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害を持つ子が地域の中で当たり前生活出来るための福祉の在り方を学び、障害を持つ子への理解を深め、療育及び生活支援の在り方を探る。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>その都度プリントを配布する。授業の過程で参考図書を紹介する。</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 障害を持ちながら生きるということは 2 障害を持つ人たちの歴史 3 教育・療育の可能性を求めて 4 早期発見・早期治療及び療育の現状 5 養護と教育の構造 6 共に生きる地域の暮らし、共生の理念 7 障害を持つ人たちの世界各国の生活と福祉 8 障害児福祉の構造 	
<p>【評価方法】</p> <p>1-学期末テスト 2 小レポート 3 出欠の状況・授業の取り組み</p>	

【授業科目】 障害児・者福祉論	【担当者】 佐藤久夫
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害者福祉の理念、法体系、国際動向など基本的・総論的なことをとりあげる。障害児・者のもつ「障害」には医学的・能力的・社会的などの「次元」があり、それぞれの次元の「障害」にもいろいろな「種類」があることをまず学び、さらにそうした人々への援助の理念、法制度をまなぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>佐藤久夫 障害者福祉論 誠信書房 (初版1991)</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>佐藤久夫 障害構造論入門 青木書店 1992</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>①障害とは何か、障害（機能障害）の多様性、統計</p> <p>②障害の構造的な理解と国際障害分類</p> <p>③障害者福祉の理念と思想</p> <p>④障害者基本法、障害者福祉諸法とその改革動向</p> <p>⑤地域生活支援の時代の障害者福祉</p> <p>⑥障害者福祉の国際動向とアジア太平洋障害者の10年</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>試験を予定している。</p>	

【授業科目】 社会福祉援助技術論	【担当者】 山口尚子・杉本一義・千葉和夫
【開講期】 2 年 前期	
【授業目標】 1 介護福祉と社会福祉援助技術の関係について理解する。 2 個別援助技術、地域援助技術に関する理論と方法について理解する。 3 グループを活用したケア&ソーシャルワークに関する理論と実践的技法について習得する。	
【テキスト】 山口担当 「社会福祉援助技術各論Ⅱ」 山口稔編 相川書房 杉本担当 「人生福祉学入門」杉本一義訳 杉本研究室気付人間福祉研究会 千葉担当 「社会福祉援助技術各論ⅠB」(改訂版)福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版	
【参考書】 山口担当 授業の中で適宜紹介する 杉本担当 授業の中で適宜紹介する 千葉担当 「レクリエーション援助」 千葉和夫責任編集 メヂカルフレンド社 「要介護高齢者グループケア」千葉和夫他編著 メヂカルフレンド社	
授 業 計 画	
(山口担当) 1 介護福祉と社会福祉援助技術 ①社会福祉援助技術の意味 ②社会福祉援助技術の基本的枠組み ③介護福祉と社会福祉援助技術の関係 2 地域援助技術(コミュニティワーク)の理解 ①コミュニティワークの概念と基礎理論 ②コミュニティワークの展開課程 3 その他の援助技術の概要 (杉本担当) はじめに 人生福祉の視座 ～一回限りの人生の展望に立つ 1 人生(ライフ・コース)における福祉援助の意義 人生、福祉観の推移、援助概念の発展過程 2 個別的援助方法の基礎体系と実践実像の探究 ケースワークの萌芽、援助体系、聖職観と職業観 3 社会福祉における人間形成の援助方法の基本体系 ケースワーク、カウンセリング、人間学的発想 むすび 実践研究の方法、展開的条件発生法 (千葉担当) 1 生活や人生とグループ 個人-家族-小集団-組織体-地域社会-一般社会 2 ケア&ソーシャルワークにおけるグループ活用の有効性と分野 医療-保健-福祉-学習 3 グループ活用プロセスと援助技法 準備-開始-展開-終結-移行 4 グループを活用した個別ケアに関わる技法 主にレクリエーションワークにおける個別援助の展開 5 要介護高齢者グループケア特論 老人デイサービスセンターなどにおけるグループケア論の提案	
【評価方法】 山口担当 平常点とレポートによる 杉本担当 授業時に指示する 千葉担当 上記内容に関する2本程度のレポートによる (各担当者による評価を総合して最終評価とする。)	

【授業科目】 社会福祉援助技術	【担当者】 山口尚子・杉本一義・千葉和夫
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>個別援助技術、集団援助技術、地域援助技術の理論をもとに実践的な応用能力を向上させ、介護福祉士としての援助技術を修得する。</p>	
<p>【テキスト】 山口担当 「社会福祉援助技術各論Ⅱ」 山口稔編 相川書房 杉本担当 授業時に指示する 千葉担当 「社会福祉援助技術各論ⅠB」（改訂版）福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版</p>	
<p>【参考書】 山口担当 授業の中で適宜紹介する 杉本担当 授業の中で適宜紹介する 千葉担当 「レクリエーション援助」 千葉和夫責任編集 メヂカルフレンド社 「要介護高齢者グループケア」千葉和夫他編著 メヂカルフレンド社</p>	
授 業 計 画	
<p>(山口担当)</p> <p>演習形態により、“社会福祉援助技術論”の講義と現場実践を関連させながら具体的な事例をとりあげ、介護福祉士としての社会福祉援助技術を修得する。</p> <p>(杉本担当)</p> <p>社会福祉における人間形成の援助方法としての個別的援助方法（ケースワーク）について、“社会福祉援助技術論”の講義内容を踏まえ、具体的な実践事例を検討評価しながら学習することとする。</p> <p>(千葉担当)</p> <p>“社会福祉援助技術論”の授業内容について、演習方式で理解を深め、実践的技法について修得する。</p>	
<p>【評価方法】 山口担当 平常点とレポートによる 杉本担当 授業時に指示する 千葉担当 上記内容に関する2本程度のレポートによる (各担当者による評価を総合して最終評価とする。)</p>	

【授業科目】 レクリエーション指導法	【担当者】 三木 和子
【開講期】 2年 前期・後期	
【授業項目】 社会福祉領域におけるレクリエーションの概念、並びに利用者の QOL の向上にも直結するレクリエーション援助の意義を理解し、援助技術のステップアップを目指します。	
【テキスト】 「レクリエーション援助法」 建帛社	
【参考書】 「福祉レクリエーション・実践マニュアル」 中央法規	
授 業 計 画	
講義 1. レクリエーションの概念と意義 講義 2. 利用者理解の重要性 演習 1. レクリエーションの体験学習 演習 2. コミュニケーションの技法 演習 3. 個別援助の実際 演習 4. 集団援助の実際 講義 3. 援助技術のステップアップ 講義 4. レクリエーション援助の計画 演習 5. プログラム計画 講義 5. 福祉領域におけるレクリエーション援助に求められること	
【評価方法】 ペーパーテスト、もしくはレポート	

【授業科目】 障害者の心理	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 後 期	
【授業目標】 1. 障害者の心理的特性を理解し、援助者としての基礎を学ぶ。 2. 福祉援助者としての援助の技法や実際について学ぶ。 3. 今後の障害福祉の動向を踏まえた上で、自分が学ばなければならない課題について考える。	
【テキスト】【参考書】 授業になかで配布するプリント・テキストを中心に進める。 授業の中で、適宜、紹介する。	
授 業 計 画	
<p>以下のような内容について、資料・ビデオを使用しながら進める。 各単位ごとに、小テストを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者の心理を理解する視点 <ul style="list-style-type: none"> ・障害とリハビリテーション ・心理的特性と心理的問題およびその要因 2. 障害の種類と心理的特性 <ul style="list-style-type: none"> ・運動障害と心理的特性 ・内部障害と心理的特性 ・感覚障害と心理的特性 ・コミュニケーションの障害と心理的特性 ・精神の障害と心理的特性 3. 障害者の心理的問題を理解する技法 <ul style="list-style-type: none"> ・心理検査法 ・面接・相談技法 ・心理療法 4. 障害の受容に向けての援助 <ul style="list-style-type: none"> ・障害の受容に向けての援助 ・障害の受容へ向けての援助の実際 ・障害の受容と家族 5. リハビリテーションにおける心理的援助の実際 6. 環境とのかかわりのなかでの心理的援助 <ul style="list-style-type: none"> ・人的環境と障害者援助 ・物的環境と障害者援助 ・社会環境と障害者援助 7. 現在の障害者福祉の動向と求められる援助者の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・障害者の自己決定権とアクセス権の保障権利擁護 	
【評価方法】 ①授業ごとの小テスト ②定期試験 ③出席点 <div style="text-align: right;">での総合評価</div>	

【授業科目】 栄養・調理	【担当者】 柳沢幸江
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 身体の生理機能と栄養の関係について理解させる。 2, 高齢者、障害者児の栄養摂取など、食生活のあり方について理解させる。 3, 食品衛生を含んだ食品についての知識を学ばせる。 4, 調理の概要について理解させる。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">山口和子 編著 「改訂 栄養・調理」 建帛社</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の機能と栄養素 <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養摂取の意義と口腔からの食物摂取 2) 栄養素の機能とその消化吸收 3) 栄養所要量 4) 食事リズム 5) ストレスと栄養 2. 高齢者・障害者（児）と栄養 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の栄養と食生活のあり方 2) 障害者（児）の栄養と食生活のあり方 3) 生活習慣病予防と食事 3. 食品・調理 <ol style="list-style-type: none"> 1) タンパク質性食品の性質と調理特性 2) 脂肪性食品の性質と調理特性 3) 炭水化物性食品の性質と調理特性 4) 食品成分の変化 5) 食品の保存性と安全性 6) 食べ物の嗜好性、おいしさ 7) 調理器具、設備、エネルギー源 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験 および 出席状況</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅰ(栄養・調理)	【担当者】 柳沢幸江
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1, 障害者（児）や高齢者の食事に関する援助の基本的な方法について実習によって学ばせる。 2, 施設実習などで経験した食事介助のあり方、食品衛生の管理の方法を実習と関連させながら理解させる。 	
<p>【テキスト】</p> <p style="text-align: center;">教師作成のプリント</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1, 基本的な調理操作、及び調理器具の扱い方を日常の家庭料理の実習を通じて学ぶ。 2, 献立作成・栄養価計算 自分の食事記録及び、その診断によって、望ましい食事構成のあり方を学ぶ。 3, 障害者（児）・高齢者にとって望ましい食事を、主に食物形態の変化を中心に実習により学ぶ。 4, 障害者（児）・高齢者の食行動を理解しながらの、実際的な食事の援助を実習する。 加えて衛生管理を学ぶ。 5, 嗜好調査の方法と分析方法を演習する。 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験および課題レポート</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ(被服・住居)	【担当者】 山本良子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>衣生活の管理に関する技術を実習を通して習得させ、かつ高齢者や障害者の家庭生活管理に必要な実践的な経営能力を養わせる。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>家政学実習ノート 佐々井 啓編 誠信書房</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>家政学実習 大谷 陽子編 建帛社</p>	
授 業 計 画	
<p>1) 被服素材の特徴および繊維鑑別の実習 素材表示に示されている繊維の簡単な見分け方の実習</p> <p>2) 布地の性能に関する実習 布地の種類、構造の観察実習</p> <p>3) 被服管理実習 洗濯、しみ抜き、仕上げ、保管その他</p> <p>4) 高齢者や障害者のための被服のデザイン・構成および着脱の工夫、 体型・障害の例による使いやすい被服の検討を考える。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>実習レポート</p>	

【授業科目】 家政学実習Ⅱ(被服・住居)	【担当者】 定行まり子
【開講期】 2 年 後期	
【授業目標】 住居は、我々人間が生活を営む上で、最も基本的な場である。人間及び家族が拠り所としている住居は、安全であり、快適であることが望まれる。そこで、本授業では個々人や家族、また特に、高齢者や子どもが安全で、快適に暮らすための住居や住生活の計画・管理についての実践力を養うことを目標としている。	
【テキスト】 後藤久 他「基礎シリーズ住居学入門」実教出版 随時プリントなどを配布。講義中に参考図書を紹介する。	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p style="text-align: center;">授業は、講義と演習及び実地見学などが計画されている</p> <p><講義内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1。生活様式と住居 2。健康的で快適な室内環境 3。住居の管理 4。これからの住まいと生活 <p><設計演習></p> <ol style="list-style-type: none"> 5。住居の設計 6。バリアフリー設計 <p><見学実習></p> <ol style="list-style-type: none"> 7。住宅都市整備公団試験場 	
【評価方法】 出席・小テスト・レポート課題・設計課題	

【授業科目】 医学一般 I	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能の総合的理解と胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解を計る 2. 代表的疾患の理解 	
<p>【テキスト】 介護福祉士養成口座 10 医学一般 (中央 法規)</p>	
<p>【参考書】 ベッドサイドマニュアル 成人内科看護 (中央 法規) エキスパートナース 内科疾患看護マニュアル (小学館)</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 各器官の構造と機能の理解だけでなく、臓器相互関係の理解も計る 胎生期から老年期に至る発達・成長・加齢現象の理解 2. 1) 循環器系；高血圧・虚血性心疾患・心不全・不整脈など 2) 脳・神経系；脳血管障害・神経痛・末梢神経障害・パーキンソン病・ 脊髄小脳変性疾患・筋疾患・脳性麻痺など 3) 内分泌・代謝系；糖尿病・痛風・甲状腺機能亢進症と低下症・ 高脂血症など 4) 腎・泌尿器系；尿路感染症・前立腺肥大症・前立腺癌・膀胱癌・ 急性・慢性腎不全など 5) 血液系；貧血・成人 Tcell 白血病・悪性リンパ腫など 6) 呼吸器系；肺炎・結核・インフルエンザ・AIDS 7) 消化器系；肝炎・出血性大腸菌感染症・消化性潰瘍など 8) 感染症；法定伝染病・指定伝染病・食中毒・麻疹・風疹・ 流行性耳下腺炎・伝染性紅斑・日和見感染・MRSA など 9) 骨・関節系；骨折・脊髄損傷・骨素少々・変形性脊椎症・ 脊柱管狭窄症・慢性関節リウマチなど 10) 癌 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 医学一般Ⅱ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療対策と医療法制度の理解 2. 医療関係者とのスムーズな連携のために—— 医療福祉現場で実際に必要とされ理解していたほうが better な知識の習得 	
<p>【テキスト】 介護福祉士養成講座 10 医学一般（中央 法規）</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 1) 公衆衛生の現状 2) 保健計画と健康増進対策 3) 保健対策—母子保健・老人保健・精神保健など 4) 医事法制の概要 2. 1) カルテ（医療情報提書）の読み方 2) “薬（処方箋）”の中身の調べ方と重要な薬の副作用の理解 3) 主な検査データの読み方（血算・生化学・尿） 4) 入所者の全身状態の把握の仕方 意識状態・Vital Sign・感覚運動麻痺の有無・deccubitus などの皮膚状況の把握の仕方など 5) 入所者の緊急状態の把握の仕方と救急処置 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">出席点と筆記試験</p>	

【授業科目】 精神保健	【担当者】 新井治美
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健の今日的意義について理解させる。 2. ライフサイクルにおける精神保健の役割について理解させ、合わせて、精神障害の基礎知識や精神保健行政などについて理解させる。 	
<p>【テキスト】 精神保健福祉士養成セミナー・第2巻 精神保健学 へるす出版、1998、小坂憲司、矢野亮爾編</p> <p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健の基本知識 2. ライフサイクルにおける精神保健 胎児期および乳幼児期、学童期、思春期、青年期、成人期、老年期 3. 精神保健における個別課題への取組 精神障害者対策、老人性痴呆対策、アルコール関連問題対策、薬物乱用防止対策、精神保健に関する調査研究 4. 精神障害の基礎知識 5. 精神保健活動の実際 家庭、学校、職場、地域 6. 世界の精神保健 世界の精神保健の現状と問題 	
【評価方法】	

【授業科目】 介護技術Ⅱ

【担当者】 中山幸代

【開講期】 2 年 前期 ・ 後期

【授業目標】

介護技術は介護の目的に基づき利用者の介護上の問題を解決するために、知識や技能を意図的に適応し応用する援助の手法である。

介護技術の習得に際しては、①それぞれの介護技術の根拠となる基本的知識を学ぶ、②利用者の自立と安全・安楽を配慮した基礎的介護技術ができることを目標とする。

【テキスト】

福祉士養成講座編集委員会編『三訂介護福祉士養成講座 13 介護技術』、中央法規出版

【参考書】

授 業 計 画

	項 目	実 技 内 容
1	睡眠の介護	
2	受診・検査・薬の介護	
3	終末期の介護	死後の処置
4	感染予防	ガウンテクニック、無菌操作
5	褥瘡の予防と手当て	褥瘡の手当て
6	安楽・安寧への援助 (罨法・マッサージ・指圧)	罨法（冷・温） マッサージ・指圧
7	体温・脈拍・呼吸・血圧測定と介護	体温・脈拍・呼吸・血圧測定
8	救急時の介護	救急法
9	福祉機器の活用	

【評価方法】

課題レポートとペーパーテストにより評価する。

【授業科目】 障害形態別介護技術Ⅱ	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>障害形態別介護技術Ⅰで未履修部分の人体の解剖生理を学び、また、高齢者疾患に対する理解と対処法を修得する。さらに、介護士自身の健康管理法も学ぶ。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>特になしプリントを中心に講義する予定</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p> <p>介護福祉士養成講座 1 4 障害形態別介護技術</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 老人特有の症候の理解と対処法（障害形態別介護技術Ⅰで履修した老年医学での知識を深める。－疾患別の理解から症状・状態の理解へ） <ol style="list-style-type: none"> 1) 意識障害 2) 不眠 3) 転倒 4) 尿失禁 5) めまい 6) 誤嚥 7) 腰痛 8) 脱水・浮腫 9) 便秘 10) じょくそう 11) 譫妄 12) 手足のしびれ など 2. 老年者の救急疾患と対策：心臓血管系疾患・精神神経疾患・呼吸器疾患・消化器疾患での救急時の症状理解とその対処法の修得。 3. ターミナルケア：ターミナルケアの捉え方と理想的なターミナルケアの在り方を考える 4. ケアとリハビリテーション <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃用性萎縮の予防 2) 痴呆性老人ケア 3) 脳血管障害のケアとリハビリテーション 4) 言語障害のケアとリハビリテーション 5) 骨折後のケアとリハビリテーション 6) 嚥下障害のケアとリハビリテーション など 5. 介護士自身の健康管理法 介護士が職務上注意すべき疾患とその予防法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の原則 2) 健康増進と生活習慣病などの疾病予防法 <p>－食生活と栄養・運動・喫煙・アルコール・休養とストレス－</p> 3) 注意すべき疾患とその予防法 <p>腰痛症（ヘルニア・坐骨神経症・脊柱官狭窄症・すべり症など）</p> <p>手足のしびれ</p> <p>感染症（肝炎・結核・介せんなど） など</p> 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点と筆記試験</p>	

【担当科目】 障害形態別介護技術(肢体不自由/内部障害)Ⅱ	【担当者】 関谷 榮子
【 開講期 】 2 年 前 期	
【授業 目標】 肢体不自由者・児及び内部障害者の生活障害を総合的に理解した上で個別的ケアの方法を学ぶ。 肢体不自由者・児及び内部障害者の日常生活上の個々の課題に対応する介護援助の技法を学ぶ。 福祉機器・用具の知識と個々の介護ニーズに対応する活用方法を習得する。	
【テキスト】 テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)	
【参考書】 講義の中で随時紹介する。	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 肢体不自由者・児、内部障害者の個別の精神的・身体的状況を理解し介護ニーズに対応する方法を学ぶ。 2. 脳神経疾患、内部障害、骨関節疾患、難病の人たちの個別の介護ニーズに対応する方法を学ぶ。 3. 心身障害者（児）、重複障害者（児）の個別の介護ニーズに対応する方法を学ぶ。 4. 福祉機器・用具の知識と個々の介護ニーズに対応する活用方法を習得する。 <p>授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害とその後遺症（片麻痺）の介護方法を学ぶ。 ・失語症、失認症などのコミュニケーション障害者の介護方法を学ぶ。 ・脊髄損傷者の介護方法を学ぶ。 ・脳性麻痺及び先天性四肢欠損者の介護方法を学ぶ。 ・重複障害者（児）の介護方法を学ぶ。 ・精神障害者の介護方法を学ぶ。 ・福祉機器の種類や使用方法を学ぶ。 <p>既存ビデオや障害者の生活の記録を紹介し介護ニーズに対応する援助技法を考える。</p>	
【評価方法】 レポート 及びペーパー試験	

【担当科目】 障害形態別介護技術(高齢者の介護)Ⅱ	【担当者】 木下安子 関谷榮子
【開講期】 2 年 前 期	
<p>【授業 目標】</p> <p>虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の生活障害を総合的に理解する。 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の日常生活上の介護・援助について体系的に学ぶ。 要介護高齢者のケア・マネジメント、ケアプランのたて方を学ぶ。 地域ケアの展開方法、関係領域との連携方法を習得する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>テキスト 障害形態別介護技術 (中央法規出版 k k)</p>	
<p>【参考書】 参考書、資料、ビデオなどを講義の中で随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者の生活援助に関する個別性、継続性、総合性について理解を深める。 2. 虚弱高齢者の支援、寝たきり高齢者の介護、痴呆性高齢者の精神的・身体的支援などについて介護・援助の具体的な方法について実践的に学ぶ。 3. 実習などの体験から得られた知識・技術をもとに、援助理論の応用方法について学ぶ。参考文献等を読み、グループ討議により介護・援助の有るべき姿を自分なりにまとめる。 4. 虚弱高齢者・寝たきり高齢者・痴呆性高齢者のケアマネジメントの方法を理解する。アセスメント、ケアプラン、実施、再アセスメントの過程を理解し、実習で実践応用できる能力を身につける。 5. 高齢者の生活障害を改善するために必要な福祉機器及び住居改造について理解し、活用方法を学ぶ。 6. 高齢者の地域ケアについて学び、組織の一員としての介護福祉士の役割を学ぶ。 7. 高齢者介護を提供する施設の特徴を理解し、チームワーク、連携方法について理解する。 8. 先進諸外国の介護状況などを学び、高齢者介護・援助の視野を拓げるために集中講義等を実施する。 	
<p>【評価方法】 レポート 及びペーパー試験</p>	

【授業科目】 視覚障害援助技術	【担当者】 直居鉄
【開講期】 2 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>視覚障害といっても、障害の程度（見え方）、障害の発生原因とその時期、今後の進行予測など個人によって様々である。いずれにしても、日常生活において受ける影響は大きくその克服は容易ではない。その障害を克服して社会的に自立するために必要な援助について学習する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>視覚障害者の介護技術、点字の本</p>	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>視覚障害に関連する医学的知識として、目の構造と機能、視覚障害の原因となる疾病、残存感覚の働きと活用などの基礎的な知識を学習する。</p> <p>厚生省による身体障害者・児実態調査を参考資料として、視覚障害者・児の状況、教育、職業、日常生活の現状においてどのような場面にどのような援助が必要であり、その具体的な方法を学習する。</p> <p>視覚障害による歩行・移動の障害に対する介護技術を学習する。</p> <p>視覚障害は、日常生活のあらゆる分野において情報の入手が困難であり、そのために情報障害者ともいわれている。パーソナルコンピュータを始めとする情報機器やシステムの急速な発達の実状とその活用に対するどのような援助が必要であり、その具体的方法に関する知識技能を学習する。点字、音訳（朗読）の基礎的な知識技能を学習する。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点、レポート</p>	

【授業科目】 聴覚障害援助技術	【担当者】 貞廣邦彦
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害に関する医学的知識を理解する。 2 聴覚障害者の生活や心理を理解した適切な介護法を考える。 3 残存感覚機能の活用法および音声言語に代わるコミュニケーション方法を習得する。 4 聴覚障害に他の障害が加わった重複障害者の介護について考える。 	
<p>【テキスト】</p> <p>「手にことばを（初級）」東京都聴覚障害者連盟発行</p>	
<p>【参考書】</p> <p>「わたしたちの手話（1）」全日本ろうあ連盟発行</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 聴覚障害の原因・種類・程度と聴覚障害者の生活への影響 2 聴覚障害者のコミュニケーション方法と介護の留意点 3 残存感覚機能を活用するための器具の利用法 4 聴覚障害者の社会生活と情報 5 手話の基礎的知識と指文字 6 生活場面での手話表現 7 歌の手話表現 8 会話場面での手話表現 9 聴覚障害者との手話演習 10 手話の特徴と手話通訳の基礎的演習 	
<p>【評価方法】</p> <p>授業の出席状態と筆記試験によって評価する。</p>	

【担当科目】介護実習 Ⅲ	【担当者】 関谷榮子・中山幸代・新井幸恵・西方規恵・吉沼孝子
【開講期】	2 年 前 期
<p>【授業 目標】</p> <p>実習第Ⅲ期（総合実習）</p> <p>(1) 受け持ち利用者の介護計画を立案、実施、評価し利用者理解を深める。</p> <p>(2) 夜勤などの変速勤務を体験し利用者の24時間の生活を理解する。</p> <p>(3) 介護福祉士としての自己覚知をもち、自己の介護観を述べるができる。</p> <p>(4) 第Ⅲ期終了後に受け持ち利用者の介護過程をまとめレポートにする。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>実習要項他</p>	
<p>【参考書】</p>	
<p>実 習 計 画</p>	
<p>1. 介護計画の立案、実施、評価の方法を習得する。</p> <p>1) 受け持ち利用者の全体像を把握し問題を明確にしたうえで介護計画を作成する。</p> <p>2) 介護計画の内容については実習指導者の助言を得た後に実践する。</p> <p>3) 日々の実践を所定の記録用紙に記録する。</p> <p>2. 夜勤実習</p> <p>利用者の24時間の生活援助を経験する。</p> <p>3. 介護福祉士としての資質、適性を身につける</p> <p>1) 実習を通して介護者としてのあり方、援助の内容を分析し介護福祉士としての自己覚知を深める。</p> <p>2) 自己の介護観を明確にする。</p> <p>実習期間 平成11年9月1日から28日までの24日間</p> <p>実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p>	
<p>【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。</p>	

【担当科目】 実習指導	【担当者】 関谷 榮子・中山 幸代・新井 幸恵・西方 規恵・吉沼 孝子
【開講期】	2 年 前 期
【授業 目標】 (1) 体験学習を通じて知識・技術、態度を具体的に实际的に応用する能力を身につける。 (2) 介護福祉専門職としての自己覚知をもち、専門職に求められる資質技能及び自己に求められる課題把握など、総合能力を修得する。 (3) 個別介護計画を立てて実施し評価する方法を学ぶ。	
【テキスト】 実習要項他	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>1. 実習前 実習第Ⅱ期のスーパービジョン及び第Ⅲ期実習に向けての準備 1) 第Ⅱ期実習後のスーパービジョン 2) 第Ⅲ期実習配属施設の決定 3) 受け持ち利用者の情報収集、アセスメント、問題発見と分析 4) 介護計画の立案、実施、評価</p> <p>実習期間 平成11年9月1日から28日までの24日間 実習施設は特別養護老人ホーム、老人保健施設、身体障害者療護施設、肢体不自由児者施設、救護施設などから学校の指定施設にて行う。</p> <p>2. 実習終了後 1) 第Ⅲ期介護実習のまとめ 2) 受け持ち利用者のケーススタディ・レポートを作成する。</p>	
【評価方法】 出席点、 レポート・日誌・記録の内容、面接、その他の資料により評価する。	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>福祉施設・医療現場で使用される医療機器の理解</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>特別養護老人ホームや老人保健施設などにおいて、介護士も入所者の急変や定期検査などで種々の検査器具や医療機器使用の場面に遭遇する機会は多い。その際、それら機器の使用目的・取り扱い方法を理解していることは、緊急時に医師・看護婦などの医療スタッフと協力して入所者をサポートできる。よって、それらの検査器具や医療機器の使用目的の理解をめざす。また入手できる機器があるので、それら機器を使い学生同志でお互いに測定し合ったり、簡単な実験を試みて取り扱い方の修得をめざす。さらに、時間の余裕があれば、実際に医療機器が使用されている福祉現場や医療現場の見学をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血圧測定・脈拍測定・体温測定の仕方 2) 心電図の原理理解と測定法 3) バルーンカテーテル管理法 4) 中心静脈栄養の留意点 5) ストマ（人工肛門）の取り扱い方と留意点 6) 在宅酸素療法と酸素ボンベ・酸素マスクの取り扱い方 7) 喀痰吸引機の取り扱い方と留意点 8) 点滴セットの取り扱い方と留意点 9) 超音波エコー・CT・MRI・レスピレーター・パルスオキシメーター などの適応と目的の理解 など 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席点とレポート</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール

【担当者】 鍾 家新

【開講期】 2 年 前期・後期

【授業目標】

今日までの社会福祉は、暗黙のうち、基本的に男性社会を前提としてきた。本ゼミナールにおいては、女性の視点からの再検討と見直しを行う。本ゼミナールの参加によって、学生たちは、現代日本の社会福祉に対する理解を深め、社会福祉文献の読む力と表現力を高めることができ、福祉援助者として社会福祉を相対的に考える力を身につける。

【テキスト】

文献のコピーを使用する。

【参考書】

講義の中で必要に応じて参考文献を紹介する。

授 業 計 画

- | | |
|------------------------|--------|
| 1. 現代日本の社会保障と女性の自立 (Ⅰ) | (第1回) |
| 2. 現代日本の社会保障と女性の自立 (Ⅱ) | (第2回) |
| 3. 税制における男女の不平等 (Ⅰ) | (第3回) |
| 4. 税制における男女の不平等 (Ⅱ) | (第4回) |
| 5. 労働法における女性の地位 (Ⅰ) | (第5回) |
| 6. 労働法における女性の地位 (Ⅱ) | (第6回) |
| 7. 家庭における労働の評価 (Ⅰ) | (第7回) |
| 8. 家庭における労働の評価 (Ⅱ) | (第8回) |
| 9. 就労形態の変化と社会保障 (Ⅰ) | (第9回) |
| 10. 就労形態の変化と社会保障 (Ⅱ) | (第10回) |
| 11. 育児・介護に対する休業保障 (Ⅰ) | (第11回) |
| 12. 育児・介護に対する休業保障 (Ⅱ) | (第12回) |
| 13. 働く女性の健康問題 (Ⅰ) | (第13回) |
| 14. 働く女性の健康問題 (Ⅱ) | (第14回) |
| 15. 医療保障と女性 (Ⅰ) | (第15回) |
| 16. 医療保障と女性 (Ⅱ) | (第16回) |
| 17. 年金と女性の自立 (Ⅰ) | (第17回) |
| 18. 年金と女性の自立 (Ⅱ) | (第18回) |
| 19. 老後の経済的自立と公的支援 (Ⅰ) | (第19回) |
| 20. 老後の経済的自立と公的支援 (Ⅱ) | (第20回) |
| 21. 女性の自立と社会手当 (Ⅰ) | (第21回) |
| 22. 女性の自立と社会手当 (Ⅱ) | (第22回) |
| 23. 母子家庭への社会的支援 (Ⅰ) | (第23回) |
| 24. 母子家庭への社会的支援 (Ⅱ) | (第24回) |
| 25. 女性の自立と居住保障 (Ⅰ) | (第25回) |
| 26. 女性の自立と居住保障 (Ⅱ) | (第26回) |
| 27. 女性と高齢者の在宅介護 (Ⅰ) | (第27回) |
| 28. 女性と高齢者の在宅介護 (Ⅱ) | (第28回) |
| 29. 総括 (Ⅰ) | (第29回) |
| 30. 総括 (Ⅱ) | (第30回) |

【評価方法】

文献輪読への参加と報告により評価する。

【担当科目】 卒業研究 ゼミナール	【担当者】 関谷 榮子
【開講期】 2 年 前 ・ 後 期	
【授業 目標】 1. 地域の障害者や高齢者の人たちの生活の様子を学び、介護援助の課題を考える。 2. 学生自身の問題意識を尊重し体験学習を通じて実践的に学ぶ能力を養う。	
【テキスト】	
----- 【参考書】 ゼミナールの中で紹介する。各自で見つけるのもよい	
授 業 計 画	
<p><前期> 学内の活動 参考書やビデオなどから各自で学び抄読会を行う。 地域活動 在宅の障害者や高齢者の家庭を訪問し直接当事者の方々から話を聞く。</p> <p><後期> 地域活動を継続し、レポートにまとめる。 在宅ケアのあり方をまとめる。</p> <p>学生同士のボランティア活動に協力したり、ゼミ運営は学生自身の自主活動とする。</p>	
【評価方法】 出席点、 レポート・その他により評価する。	

【授業科目】卒業研究ゼミナール	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>テーマ「高齢者・障害者の”権利擁護”を考える」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者・障害者に対する今後の福祉サービスのあり方について、権利擁護の視点から学ぶ。 2. ”人がその人らしい人生を充実して生きる”という”権利”と、それを保障すること、”擁護すること”について、各施設、各地の実践から学ぶ。 3. 身近な問題を検討しながら、福祉援助者としての自分のあり方について、考える。 	
<p>【テキスト】 【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業のなかで、適宜、提示する。 ・ 図書館・研究室にある資料の他に、関係者や関係カ所から情報を入手することになる。 ・ 毎日の”新聞”も貴重な情報源となるので、目を通しておくこと。 ・ 実践者の研究会などにも参加する。 	
授 業 計 画	
<p>「あなたは『聖者の行進』を見ましたか？ そこで描写されていたような暴力や人権侵害が、今、人知れず行われているとしたら、あなたは福祉援助者として何を考えますか？</p> <p>具体的には、ゼミメンバーそれぞれが、本や新聞、関係者へのインタビューなどを通して事例を集め、それについて討議をする方法で進めます。</p> <p>そこで取り上げる話題はゼミ員の関心の強いテーマによりますが、例えば以下のようなものが内容になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人権侵害が、今起こっているの？…白河育成園事件、サングループ事件って？ ・そもそも”人権”って何？ ”権利擁護”って何をすること？ ・”その人らしく生きる”ことの支援、援助とは？ ・”自分の人生、自分で決める”…自己選択・自己決定権とは？ ・どんなに重度の障害でも痴呆症であっても、”意思表示”があるはず …コミュニケーション弱者に対する”代弁活動”とは？アドヴォカシーってなに？ ・”地域で生きたい”権利の支援…グループホームって？ ・今後の権利擁護システムって？ …権利擁護センター、成年後見制度、福祉オンブズマンって？ ・福祉援助者として、我々は今、何を考えなければならないのだろうか 	
<p>【評価方法】</p> <p>ゼミでの討議や資料収集などへの積極的な参加姿勢を評価する。</p> <p>”おもしろい!!”と感じられることが、第一の評価対象。</p> <p>近隣施設に出向いたり関係者に直接話を伺うなどの活動を含めて、ゼミ活動と考えること。</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 村田保太郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間がよく生きるとはどういうことかを考える 2 高齢者の生き方を通して老いを生きることについて考える 3 高齢者めぐる人間関係を通して生き方の違いを考える 4 人間の様々な死のかたちを通して良く死ぬとはを考える 	
<p>【テキスト】</p> <p>メンバー全員分の著書を各自が全部完読する</p>	
<p>.....</p> <p>【参考書】</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 ゼミメンバーで全員分の著書話し合っ決めて 2 割り当て分の著書を各自が一冊ずつ全部読む 3 各自が自分なりに整理・分析し、全員で討論する 4 老いをどう生きるかについて考察する 5 良く生きることについて、共生について考察する 6 死の様々なかたちを通して、良く死ぬについて考察する 7 ゼミ合宿、普段の話し合い、の中で自分が良く生きているか考える 8 ビデオ・新聞・その他から情報を得る 	
<p>【評価方法】1 普段の取り組みの姿勢（出席・読書等）</p> <ol style="list-style-type: none"> 2 本の分析・考察・問題の掘り下げ方 3 ゼミへの協力的な態度・充足感・楽しみ方 	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 八木紘一郎
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p style="text-align: center;">高齢者とアート</p> <p style="text-align: center;">高齢期のアートの意味と方法について</p>	
【テキスト】	
<p>-----</p> <p>【参考書】</p>	
授 業 計 画	
<p>幼年期・若年期・壮年期・老年期のそれぞれのアートの意味の多様さについて、共通することや特有のことについて理解を深めると同時に具体的な実践技術（アートテクニック及びアートコーディネイト・スキル）について演習する。</p> <p>誰もがアート・エネルギーをもっている。誰もが表現者としての可能性をもった存在である。しかし、高齢化するほど表現者としてより観賞者の度合いが増えていく。消費社会がその度合いをいっそう増していく方向にある。しかし、このゼミでは、高齢者がかぎりなく表現者としての可能性を追求できる内容について考えると同時にアートがもたらす効用についても探究する。アートを使って自己表現する。アートを使って遊ぶ。アートを使って癒す。アートを使ってコミュニケーションする。こうしたいろいろなアート機能を実現するためのテクニック及びコーディネイト技術を実践的に考察する予定でいる。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点（作品・上演） ・ レポート</p>	

【授業科目】 卒業研究ゼミナール	【担当者】 山口尚子
【開講期】 2 年 前期・後期	
<p>【授業目標】</p> <p>社会福祉の援助技術について理解すると共に、社会福祉の専門性について考察する。</p>	
<p>【テキスト】</p> <p>授業時に指示する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>【参考書】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>人々が実際に生活している地域社会において、どのような福祉問題がおきているのか、また、それらに対して誰がどのような立場で、どのような援助技術をもって援助をおこなっているかについて、文献研究や事例研究などから具体的に学んでいく。そして、社会福祉援助の実践をになう社会福祉専門職としての力量を高めていきたい。</p> <p>また、その中で各自の問題意識をより明確にするとともに、ゼミ生どうしのディスカッションをとおして、お互いに学び合っていく関係をつくっていききたい。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点により評価する。</p>	

【担当科目名】 地域福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 福祉援助学科 2 年前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本科の学生が卒業後、ただちに地域福祉を主とした仕事に就くことはないだろう。おそらく介護福祉業務の仕事に就く学生が多いだろう。この授業を受けたことによって、就職した福祉施設や自分の居住地の近くに住む住民の生活に目を向け、住民が少しでも人間としての尊厳をもった生活が営めるように思いを巡らし、自分の仕事や生き方と関連させて地域福祉を考えられる視点を持てるようになることを授業目標に掲げる。</p>	
<p>【参考図書】</p> <p>「心病める人たち」・・・・・・・・石川 信義著 ・ 岩波新書 その他授業の中で紹介する。 テキストは特になし。その都度印刷配布する。</p>	
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 住民（子ども達や障害児・者、高齢者などを中心に）の生活実態をビデオや調査資料をも通して学びます。 2. その上で、地域福祉とは何かを学びます。 3. 地域福祉を高めるための実践的取り組みの中から学びます。 4. 介護福祉士として、また、地域住民のひとりとして、どう取り組むかの展望を明らかにし考えます。 	
<p>【評価方法】</p> <p>出席状況（平常点）とレポートの総合点で評価します。 したがって、出席、遅刻は非常に重視します。</p>	

[授業科目] 施設処遇論	[担当者] 石井哲夫
[開講期] 2年 前期	
[授業目標] 社会福祉基礎構造改革において示された利用者主権の政策を受けて、今後社会福祉施設のあるべき姿を模索する。基本は私が目下経営している障害者施設の実情を紹介しながら、障害者施設職員と交流して考える。	
[テキスト] 「社会福祉施設サービス論」 全国社会福祉協議会	
[参考書] 石井他「社会福祉施設実践講座」 第2, 4, 6巻 東京書籍 石井他「これからの福祉施設運営」 中央法規出版 「袖ヶ浦のびろ学園開設20周年記念紀要」社会福祉法人 嬉泉	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 総論（社会福祉施設のおかれている状況） 2. 早期アセスメント（障害児者のケアプラン） 3. 療育：発達援助（自閉症児の通所援助を中心として） 4. 療育：生活援助（肢体不自由児の介護を中心として） 5. 療育：家族支援（保護者との連携） 6. 心のケア：（不適応行動への施設生活を中心として） 7. 強度行動障害（自傷、パニックなどへの対処） 8. 高機能障害（アスペルガー障害を中心として） 9. 運営論（ケアマネジメント） 10. 運営論（施設保全と整備） 11. 運営論（財政上の諸問題） 12. 職員論（施設運営にかかわる条件として） 13. 施設と地域（施設において地域とかかわる実践を中心として） 14. 総括（社会福祉施設改革の課題） <p>3～12は施設職員により実践を紹介する。</p>	
[評価方法] レポート及び出席により評価する。	

【授業科目】	ホスピスケア概論	【担当者】	川越 厚
【開講期】	2 年 前期		
【授業目標】	死に逝く人にとって必要なケアを学ぶ。		
【テキスト】	在宅ホスピスケアを始める人のために (川越 厚 編 医学書院)		
【参考書】	家で死にたい (川越 厚 著 保健同人社) アクティブデス (川越 厚 著 岩波書店)		
授 業 計 画			
<p>1. ホスピスケア概論</p> <p>1) ホスピスケアの定義</p> <p>2) ホスピスケアの歴史</p> <p>3) ホスピスケアの内容</p> <p>2. 死に逝く人の魂のケア</p> <p>1) Total pain とは</p> <p>2) 死の教育</p> <p>3) 告知をめぐる</p> <p>3. 具体的な事例</p> <p>Video スライド等を用いた内容としたい</p>			
【評価方法】	レポート		

【授業科目名】 カウンセリング	【担当者】 林 潔
【開講期】 2年後期（福祉援助学科）	
<p>【授業目標】</p> <p>福祉援助の方法の一つとしてのカウンセリングの役割について紹介します。 カウンセリングの分野を概括し、来談者中心カウンセリングと、認知行動療法を中心に授業を進めます。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキストは使いません。 図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。 田畑治，他「来談者中心療法」，ビアーズ「わが魂にあうまで」， 国分康孝「カウンセリング・ワークブック」，ガーフィールド「心理療法」 その他，認知行動療法関係。</p>	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの役割 悩む人と、悩ますもの（ストレッサー）について 2. カウンセリングの分野の概括 カウンセリング，心理療法と人間観 3. 来談者中心カウンセリング概説(1) 序 4. 同 (2) Rogersの適応論と人格論 5. 認知行動療法の概括 行動療法と認知行動療法 Beckの立場 Ellisの立場 6. 認知行動療法の技法(1) Self-monitoring, 認知の歪みのチェック, 他 7. 同 (2) 現実検証, 日誌, 思考停止法, 他 	
<p>【評価方法】</p> <p>平常点，中間試験，レポート</p>	

【授業科目】カウンセリング	【担当者】堀江まゆみ
【開講期】 2 年 後 期 (後半)	
【授業目標】 1. 障害者・高齢者の自己発揮に関わる相談・援助実践について学ぶ。 2. 障害者・高齢者の家族支援に関わる相談・援助実践について学ぶ。	
【テキスト】 授業のなかで適宜、提示する。	
【参考書】	
授 業 計 画	
<p>カウンセリングの基本(前半)をふまえながら、障害者・高齢者あるいはその家族の援助、相談実践について学ぶ。授業のなかで、「当事者の声」に触れられる機会を設定していく。ここでの相談実践とは、介護福祉士(福祉援助者)が実際の福祉サービスにおいて行う対人援助の実際を考えながら進めるものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 障害者・高齢者の自己発揮を支える援助・相談実践 <ul style="list-style-type: none"> ・当事者参加の原則—「ピープルファースト」活動にみる当事者性 ・障害者・高齢者の自己受容と自己発揮 ・障害者・高齢者のエンパワメントを支える ・アドボカシー/セルフ・アドボカシー ・「通訳」をめぐる実践例 <当事者の声を聞く機会:私はこんな人生を生きたい> 2. 障害者・高齢者の家族支援に関わる援助・相談実践 <ul style="list-style-type: none"> ・障害、痴呆の受容 ・家族援助の価値と視点 ・全体としての家族(family as a whole)の尊重 ・家族援助システムとスタッフ ・家族援助の相談事例 <当事者の声を聞く機会:私の家族> 	
【評価方法】 ①出席点 ②授業への参加態度	

【授業科目】 発達障害論	【担当者】 堀江まゆみ
【開講期】 2 年 後 期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害児・者の障害特性や行動特徴を理解し、援助のあり方や援助システムについて学ぶ。 2. 障害児・者施設および在宅支援サービスにおける発達障害児・者の援助実践について学ぶ。 3. 障害児地域支援事業における関連機関や連携システムについて学ぶ。 	
<p>【テキスト】【参考書】</p> <p>授業の中で、適宜、提示する。</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>主に、発達障害児・者の障害特性や行動特徴について理解し、援助者としての現在の課題を考える。特に、重症心身障害児・者の「生きる」ということへの尊重や福祉サービスの実際に注目していく。授業では実践資料やVTRを使用し、具体性、実践性を伴った学習を行う。およそ、以下の項目にそって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害児・者に対する福祉サービスが今後めざすもの <ul style="list-style-type: none"> ・インテグレーションとインクルージョン ・「障害」「発達」概念の再考という意味 ・ライフサイクル／ライフステージからみた人生の創出 ・「自分らしい生き方」と自己決定権の尊重 2. 発達障害の障害特性と行動特徴の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・「特別なニーズ」という概念 ・発達遅滞(知的障害)、自閉性障害をもつ人の理解 ・学習障害(特異性発達障害)をもつ人の理解 ・注意欠陥／多動症候群(ADHD)をもつ人の理解 3. 重症心身障害児・者が「生きる」ということの意味を考える <ul style="list-style-type: none"> ・障害児・者の動き・行動から「意思」を読みとる ・援助者に求められる行動予測 ・重症心身障害児・者への医療と福祉、教育の連携・実践 4. 障害児・者施設での援助の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害児・者施設での療育・福祉サービスの実際 ・肢体不自由児・者施設での療育・福祉サービスの実際 ・重症心身障害児・者施設での療育・福祉サービスの実際 5. 家族とともに地域で生きることを支援する <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活援助のシステム(学童保育の実際、レスパイトサービス他) ・支援のための福祉サービスの実際 	
<p>【評価方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①出席点 ②授業への参加態度 <p style="text-align: right;">から評価する</p>	

【授業科目】 言語発達臨床論	【担当者】 佐々加代子
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>介護の対象となる子どもや大人の人たちの“言語”の問題について、臨床的な見方とかかわりかたを探る。かかわる人の人間関係の内容が両者の関係を深めていく、ということについて論じながら、考えて動ける介護福祉士をめざして構成する。</p>	
<p>【テキスト】 佐々加代子、コミュニケーション能力弱者のQOL援助、犀書房 佐々加代子、子どもからの贈りもの、犀書房</p>	
<p>【参考書】 佐々加代子、言語習得と人間関係、犀書房 その他、随時提供する。</p>	
授 業 計 画	
<p>介護の現場をできるだけ想定できるように構成する。内容の柱としては以下とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 介護の対象となる人たちのコミュニケーション状況 2. コミュニケーションの基本的過程と鍵となる信号行動系 3. 臨床的な見方とかかわりかた、その技法を探る 4. 言語発達過程とその途中における挫折・問題とその見方 5. 失語症とかかわりかた 6. マヒ性構音障害とかかわりかた 7. 痴呆の問題と言語とかかわりかた 8. 介護の対象者とかかわる人の役割、人間関係を豊かにするかかわり 9. 両者のQOLを求めるかかわりかた、その基盤の考えかた 10. かかわりの技法を生かしていく人間関係の内容――まとめとして 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点とレポート</p>	

【授業科目】 視聴覚メディア活用法	【担当者】 八木紘一郎
【開講期】 2 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>この授業では、手描きの絵や紙芝居、ペープサートなどの身近な視聴覚情報手段と、写真やテレビなどの画像や映像、及び音響機器やコンピューター・グラフィックスなどの新しい視聴覚メディアを、利用者とその目的に適した使い方を理解させ、それらを使った自己表現の幅を広げる方法、遊びや学習、伝達などに活用していく方法技術と援助方法について学習させる。</p>	
【テキスト】	
----- 【参考書】	
授 業 計 画	
<p>【 内 容 】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 視聴覚メディア活用の目的と意義 <ul style="list-style-type: none"> 活用の今日的意義 メディア環境が及ぼす影響と課題及び方策 2. 画像・映像メディアの活用 <ul style="list-style-type: none"> 画像の制作と活用 テレビ映像の視聴と制作及びその活用 造形と映像による併用表現 視覚メディアと遊び 3. 視聴覚メディアの活用方法の実際 <ul style="list-style-type: none"> 手づくりの画像・映像の制作の仕方 コンピューター・グラフィックスによる自己表現の方法 メディアミックスによる表現方法の実際 	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">平常点</p>	

学籍番号・

氏 名・

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830
教務課042(346)5619